

野津原方言集

續

24



迎春



表紙画……………故郷アイデア集団

題字……………姫野順子

★ ご協力いただいた皆様

松岡実。橋本杉平。内藤忠人。小野肇。加賀尾秀忍。  
岡本政雄。足立勇。酒井次郎。寺司勝次郎。菊屋奈良義。  
首藤チエ。森下フク。斎藤茅子。波多野直人。川西哲男。  
波多野テル子。橋本寛治。豊東サツキ。渡辺政喜。  
佐藤敏子。斎藤キミエ。小野雄司。雨川元善。  
工藤健一。武田鈴恵。飯倉健次。川辺毎。

★ 使わせていただいた資料

野津原村報。野津原町史。文化財調査資料。宇曾山物語。  
歴史記録会。野津原伝統文化継継承史。文化協会放送部。  
町中央公民館資料。肥後街道調査会資料。月の唄資料。  
あの日あの時資料。大分県百年資料。読み聞かせ資料。

調査スタッフ

小野寿祐、佐藤源治、那須政子、赤星ヨシミ。  
監修…小野寿祐、赤星ヨシミ。 カット…那須政子。  
印刷製本…小野寿祐、那須政子、赤星ヨシミ。  
編集プリント…佐藤源治。

平成29年4月吉日

野津原方言調査会 大分市大字竹矢

会長 小野寿祐

☎ 097-588-0572



表紙画が 今回は『故郷アイデア集団』の 皆さんのご支援で 構成してあります。多くの皆さんが影から支えて くださることで 単なる方言の単語並べですが ユニークで面白いと 方言の専門家の先生がたの おほめも頂戴いたしました。感謝申しています。

野津原で方言調査に 取り組んで早いもの 25年になりました。素人が今だから 残しておけば将来 この種の研究や参考にもなればと 多くの皆様のご支援 ご協力によって よくもまっつづいたものだと 感謝申しています。毎回の発行は 本当は ご愛読くださる 皆様が発行しているような ものです。

途中から 『方言単語』を さらに出来るだけ 全てを取り上げまして 毎回分割して掲載 この号で『『つ』の項目『テ』までたどり着き その合計も21495語に なりました。勿論 同じ単語で意味の異なる そんなものまで列記 してありますので 多くなっていますが 案外使っていて 物珍しさも あります。

ただ使ってはいけない 差別用語 卑劣な下品な 方言もありますが 方言集の性格上 ご了承ください。シリーズ物も 肥後街道、表国道街道、に続いて 『五助馬子歌…宇曾山街道』も今回が『4』まで進みました。『宝の玉手箱』には 知らなかった逸話や 『女性の底力』では 『みんな苦勞しているんだ』と 気づく 隠れ人情話が 浮き彫りされます。

余暇にクスツ笑い チュンと涙する そんな時間も あってよいのでは……それが方言で 結ばれているのです。





もくじ

見出し…………… 1  
まくじ…………… 2  
まえがき…………… 3

★方言子どもの世界 (A)

孫の気づいたバスの旅…………… 6  
やさしい天女の恩返し…………… 7  
方言説明…………… 9  
田植えの苦勞…………… 10

★民話、伝承

宿場町時代…………… 11  
孝女と大蛇の話…………… 13  
方言説明…………… 15

★女性の底力

努力報いられて…………… 17  
母介護の姉妹作戦…………… 19  
感謝のお返し奉仕…………… 21

★方言単語ひろがり

『た』項の『ケ』から…………… 23

★故郷の味

季節の食べ物…………… 37  
みどり会のダンゴ汁…………… 39  
ヤセウマ物語…………… 41  
方言説明…………… 42

★宝の玉手箱

俵あみ競技会…………… 43  
昭和の町村合併問題…………… 44  
モンテンルパの…………… 45  
キクと鷺の人柱…………… 47  
説明…………… 49  
町内史跡探訪会…………… 50

★古い唄新しい歌

七瀬小唄…………… 51  
七瀬みれん川…………… 52  
野津原賛歌…………… 53  
七瀬馬子歌音頭…………… 54  
和泉荘音頭…………… 55  
竹刀おどり…………… 56

★宇曾山物語《4》

浮きつ沈み時任せ…………… 57  
芝かき払って…………… 59  
宇曾山の道辿って…………… 60  
下谷桃源郷…………… 62  
方言説明…………… 63  
面影残る円福寺…………… 64  
紆余曲折の宇曾山…………… 65  
方言説明…………… 66

★あげなこげな話

愛宕山はいつかる…………… 67  
大分食じガン予防…………… 69  
ありゅうしち…………… 70  
アユちやんの生涯…………… 72  
第二故郷野野台…………… 73  
方言説明…………… 74

★方言単語ひろがり

『ち』項の『ギ』…………… 75

★民話、伝承

今市…………… 89  
諏訪の鹿子ゆり…………… 90  
子ども逆修墓…………… 91  
能登かぐら…………… 92  
方言説明…………… 93  
バクチ穴…………… 94



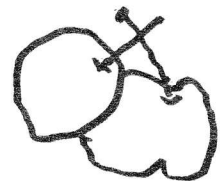
★方言単語『つ』の項『テ』…………… 95  
 ★あとがき…………… 99  
 ★伝言板…………… 100 もくじ終わり。

四国の方の新聞投稿では 大分は自然に恵まれ 海、山、温泉など いっぱいが身近な 周辺にあって 素晴らしい県。その中でも シイタケ、カボス、など 食べ物にも豊富な 健康を維持する 栄養産物が含まれて だから皆さん お元気だなど 書いてありました。

恵まれた食材も大事 それを旬に使い 食べるのも 意義があると思います。

方言も野津原で使う そんな方言が全国でも 1つか2つは使われています。北海道、沖縄、を除いて 各地にあって 方言こそまさに 人間の全国共通言葉。古い先人が使った この方言をこれからも 大切に発掘して 多くの記録を残し そのご支援を いつも惜しみなく してくださる皆様に ご恩返しと感謝を申し上げます。

安蘇の噴火の溶岩が こちらまで 流れついたのは 5億年も前のこととか そう言えば谷底が 一面岩のままに 残った場所が各地にあります。ジオパークとか言うそうです。当時の残った高さの 並びを見渡すと 舟の呼称などがあって 仄かなロマンや 夢が浮き立ち まだ続けないとと ファイトも湧きます。がその影には 常にご愛読の 皆様のお力添えがあり 感謝もうしあげます。





甦る故郷の唄『七瀬音頭』に3重の輪 『十人十色』

東部小学校で ふれあいの会があり 『音に触れ学校、家庭、地域に感謝して繋がりを深める』 音楽会が生徒、教師、保護者 更に地域の人たちも参加 素晴らしい雰囲気醸し出された。歌は世界を結ぶ愛情のリボンと 言われるように 心の絆も深まり情愛こまやかな 会場の妙なる旋律は いつまでも余韻残して……。

このプログラムの中に 恋人に出逢ったような『七瀬音頭』も踊りを伴って 平成に生まれた故郷の人たちの 作品民謡が披露される機会。踊り振りは吉野先生の 指導で地元では毎年 盆踊りの際に踊られているが 小学校の音楽会に参加したのも 故郷の歴史探求が熱心な生徒たちの 熱情が引き付けたのでは。

踊りの説明と手ほどきに 前もって練習した教師も 進んで先導生徒や保護者も この会を盛り上げるために 踊りの輪に加わりと上手に 手裁き足の運びも器用に覚え 生徒の気持ちを盛り上げる 相乗効果が見事に実って これからは運動会のマ스ゲームにも参加するのではあるまいか。

中部小学校でも平成初期に 故郷民謡が運動会マスゲームに 取りあげられて公開したこともあり 故郷の歴史も刻まれた 歌の心が改めて陽に輝いたような光景。江戸期の宿場町でもあった野津原の 歴史も香る民謡が見直された そんな嬉しさにもなりました。方言も少し仲間入りしている 七瀬音頭これからもきっと 多くの皆様に愛され踊られる そんな風情が生徒の愛郷心を 育ててくれそうです。挨拶がよく笑顔で元気に 行動する生徒の横顔には歓喜な 躍動が汲み取れるようです。この日は生徒の『音楽物語』『音楽の花束』『輝跡と大河』『吹奏楽団演奏』『全校合唱』などが会場一杯に繰り広げられました。



ふるさと民謡 『七瀬音頭』 石原美希…詩。沢野雅子…曲

ハアー 里は宇曾から みどりの野から  
明けりゃ川面に 鮎が飛ぶ ソレ  
揃うた揃うたよ 心も一つ 野津原よいとこ七瀬の里の  
いきいきいい町 ソレ人づくり。

ハアー あの娘年頃 朝露濡れて  
牛を育てる いじらしさ ソレ  
揃うた揃うたよ 今市原に 野津原よいとこ七瀬の里は  
水と緑と ソレ安らぎが。

ハアー 昔しゃ馬子唄 肥後街道の  
上り下りの 石だたみ ソレ  
揃うた揃うたよ 行列過ぎりゃ 野津原よいとこ七瀬の里の  
愛と人情の ソレ花も咲く。

ハアー 北の野野台 南の四辻  
諏訪の石仏 夢さめて ソレ  
揃うた揃うたよ 幸せづくり 野津原よいとこ七瀬の里は  
老いも若きも ソレ生き生きと。

ハアー ニラにカボスに シイタケ久保茶  
柿にイチゴに 七瀬味噌 ソレ  
揃うた揃うたよ 真心こめて 野津原よいとこ七瀬の里の  
土の香りに ソレひと目ぼれ。

ハアー 今年しゃ豊年 祭りの笛が  
実り嬉しや 十五夜の ソレ  
揃うた揃うたよ 櫓の上で 野津原よいとこ七瀬の里は  
森と泉が ソレ日本一。

平成元年 野津原町政施行30周年記念 故郷の民謡祝い唄



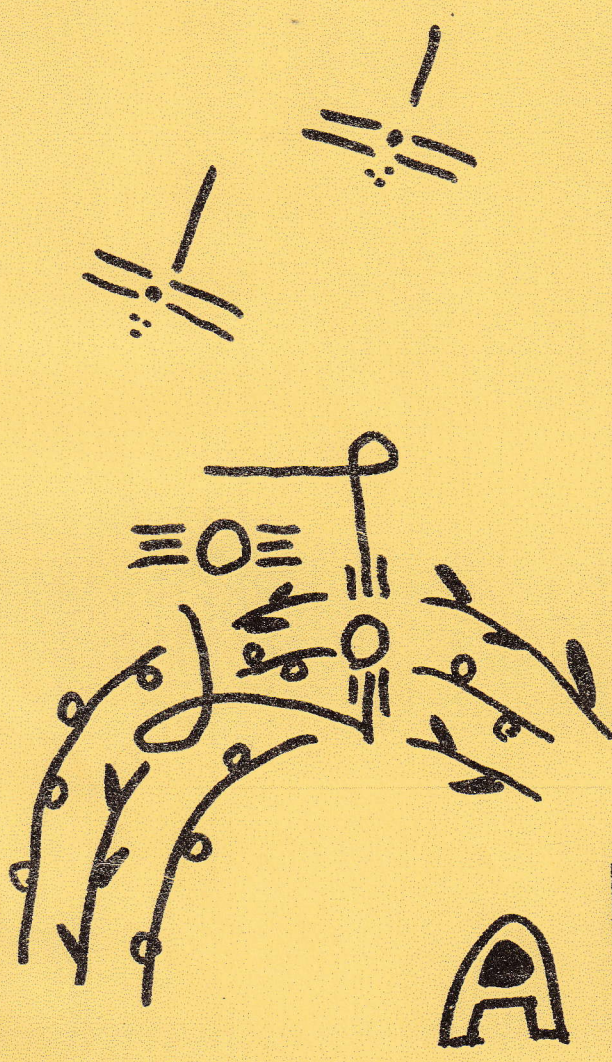
為 會 子

佛



世

忍





## 孫の気づいたバスの旅

『今日は大分まじバスじ行くで』『えっバスじ行くんな』 滅多に乗らんバスに 好奇心旺盛な孫は 乗った途端かる 大はしゃぎ。二人かけん椅子に 一人じデンと座って 大威張り。そりゅう見た ジイチャンが 『こらお客さんが 乗ると困るき ちゃんと横をあけちょかにゃ』 不服そうな 孫はジロリ睨んじ 横によった。

次ん停留所じ 若い人が乗ると 孫の横に座った。『ありゃー あんた お利口さんじゃなァ ちゃんと横あけちやるなァ』『…』 ジイチャンは嬉しかった。若い人が たったそん くらいん事をほめちくれたき 孫も『いい事をしたんじゃ』ち 自信ができたごたる。テレクサソウに 横向いた孫 若い人は次じ 降りるごたる。

若い人は 『ありがとう 気をつけてな』『はい』 ありゃ孫ん やつ 素直に返事したわい。バスは わりに少ないお客さんじゃき 席は多くあいちよる。また孫が一人占めち 動くのを見ると こんだは降りるシコか 内側にずり寄っち 一人分はチャント あけち コッチ見よる。

次の停留所じ こんだ年寄りが乗ってきた。孫の横にと 思って立ち止まったら 『おじいさん こっち空いてます』と 意外や 意外な声に ジイチャンも タマガッチシモッタ。『リャーアイツ やりおったのう』 降りる停留所が近くなった。信号で止まると エンストした時 『ジイチャン エンジンが』 『アンナ油節約じ 止めたんで』『そうか』 ニッコリ笑う孫ん顔。『いくつも勉強ができた』ち 嬉しい じいちゃん。『オジイチャン 止まっちかる 立つんで』『はーい』 孫の頭をこつん……とその時じゃつた

運転手に向かって 『ありがとうございました』 ジイチャンも つりこまれて 『お世話になりました』 なにか嬉しい車内でした このまま乗っていたい 思いでじゃつた。

帰りのバスに乗った時じゃった。整理券を取り忘れた 人が  
おっち運転手さんに 話していた。『お客さん椅子に おかけく  
ださい 危ないですから 整理券はコンドからは 忘れないよう  
にとってください 今日はいいですから』と 優しゅう 丁寧に  
説明しておるき 孫も真剣に 耳を向けて聞きよった。

そんな格好が おかしかったんか クスツと 笑うと 気がちい  
たんか 『どけしたんな』 孫ん声に 『いんにゃ 何でんねえ  
き』 そげ一言うと 『やっぱ わしん孫じゃ』ち 自慢しとう  
なりました。『つぎは 田吹橋です』 早めに言わないと ちょ  
っと 油断しち 慌てち立ち上がると困る。

『あわてんでも よいですよ 止まってから 立ってくだ~~き~~  
はい』と 運転手さんな お客さんが 慌てんごつ ゆっくりと  
ガイドしよる。じっと見ちよつた 孫は もし慌てたら すぐ  
も立ち上がって ち 思うたんじゃろう。でん ガイドが あっ  
たき 降りるお客さんも おちちーち ゆっくりと 座席を立ち  
あがり ぼちぼち 歩き出した。

じっと まばたきもせんじ 見つめた孫の姿 じいちゃんも  
なんか 嬉しい場面じゃき 大きな声じ 『これ わしん孫で』  
ち 言いたげな。孫も そりゅう じっと見つめち 『じいちゃ  
ん どげしたん』 はっと気がちーち 『いんにゃ 何でんねえ  
ど』 自分の格好が よっぽず おかしかったんか 顔色が赤う  
なったんが ゆうわかちよるごたる。

『ありがとう ございました』『お世話に なりました』 笑  
顔じあいさつすると 降りた2人ん ミニバス旅行 心までホノ  
ボノした 嬉しい日でした。きっと 回りん人たちも 楽しい  
時間になったんじゃなからうか。おじいちゃんが 孫ん頭を そ  
っと撫でると 『おおきに』 タマガッタ 孫が 『おじいちゃ  
ん どしたんな』 二人の 笑顔はいつまでも……。

## 優しい天女の 里娘えの恩返し

ある時ん事じゃつた。どうした間違いジャツタンか 天から娘が舞い降りち来た。全く知らん場所 ジャモンジャキ 困っちしもったら 里ん娘が気がチーチ 側え寄っち来ると 籠にもっちゃつた 苺をサイデータ。天女は オジイゴタル 思いじゃつたが 顔を見ながら 手をサイデーチ 恐る恐る 口にしたら そん苺ん なんとまゝ 美味しいこと。

嬉しさと心優しい モテナシに 時んタツノン 忘れちシモウタ。イットキしよると 二人ん気持ちも とけおうた ごつなっち話も 弾んじ 美味しい苺は 見るみる へっちシモウタ。里ん娘も ほんとうは 家に持って帰るんジャツタガ コゲー喜ぶ天女ん顔う見ると ソリャモウ 言えんじゃつた。

そげーするなかめ 時間はどんどん 過ぎち 日ぐれになりあたりが うす暗うなりよった。タマガッタ 天女は『しまった大変』 そう言うた 『又 あいましょう』と 言うた パットトビタッチ 飛んで行っち しもうた。里ん娘も 惜しい思いじ 急いじ 後追っかけたが もう 雲の中に消ゆるごつ 見えんごつなっち しもうた。

そんウチニ つまづいち そんハズミー足う くじいち血が流れでだした。それでん 里娘は 追いかけち走る。そん姿を天かかる じっと見ちよつた 天女は哀れと 思うと持ちよつた大切な 『お守り袋』を サット 落としました。里ん娘は何が落ちたんち 立ち止まると そりゅう受取っち 開けち見たら中に 葉が入ちよつて きつと天女が 『傷の手当てを しなさいと』落としたんじゃち 解ったごたる。

すぐそん葉を 傷口に塗ると あげー痛かったんが すうーと



ゆーなっち えーと笑顔も コボレデータ。それでんまゝ天女  
ん 姿う追いよるごたる 目じジート空を 見すえチョツタ。  
『ドコカル 来たんじゃろうか もイツペン アイタイナァ』  
ミアゲタ空も だんだん暗く なっち西んそらにゃ 星も輝い  
ちよる。

いっときシヨッタラ 傷んイタミモ ユウナッチ 『もう  
ショワネェキ』ち 全身ぬ 動かしちもみた。傷がミルミル  
ナオルト 元気も元に 戻っち おまけに すばらしい美人に  
も なっちよつた。『ありゃー いいがえー うっと』 里娘  
は 嬉しい気持ちで 歌いながら おうちに帰りました。

家に帰って あんまり 嬉しそうにシチョル そんな姿に親は  
『どしたんな 気持ちが悪いがえ』『いんね こげこげで』  
里娘は 天女とん 今日ん巡り合わせを 親に話しましたら  
親もタマガッチ 『何え そげこつう』『そうで 嬉しい』  
親も娘ん 優しい気持ちが 相手ん天女に 伝わった そんな  
お礼に『守り袋を』ち 泣き出しち しまったごたる。

二人の娘は それぞれ 違った環境ん中じ 生まれ育ったが  
相手に 対する優しい 心くぼりは 誰にも通じ合うもん。ま  
してや 知らない土地で 親切にされる その行いは 心の底  
まで 温かくもしち くれたからです。別れるのも そんな  
宿命 運命でもあったのです。

いつでも相手に 優しゅうする心 気持ちは 相手を大切に  
する事で 自分も 大事にされる 世の中ん仕組みに なっち  
よるルールなのです。人間も一人じゃ 生きて行けない 大事  
な決まりを ちゃんと 守ったからこそ ご褒美として 守袋  
をもらったのかも 知れませんね。

《野津原に伝わる民話から》



- 5 P まじ…まで。行くんな…行くのですか。こら…これこれ。  
あけちょかにゃ…あけておかないと。あけちやるなぁ…あ  
けてありますよ。たったそん…ささいな。したんじゃ…実  
行した。ごたる…ようです。わりに…予想より。シコ…準  
備。チャント…しっかりと。コッチ…こちら。アイツ…孫  
は。
- 6 P コンド…次は。どげしたん…どうしたの。じゃろう…でし  
ょう。でん…でも。おちち一た…落ち着いて。ぼちぼち…  
ゆっくりと。そりゅう…それを。どげしたんな…どうした  
の。いんにゃ…いいえ。よっぽず…よほど。ちよるごたる  
…そのようです。タマガッタ…びっくりした。
- 7 P ジツタンカ…そうでしたか。モンジャキ…ものですから。  
サイデーチ…差し出して。シモウタ…しまった。ジャツタ  
ガ…でしたが。コゲー…このように。ソリャモウ…それは  
それは。しもった…しまった。ハズミ…うごきで。
- 8 P コボレデータ…表情に現れた。シヨッタラ…していたら。  
ユウナッタ…よくなった。いいかえうっと…よいですよ私  
は。シチョル…している。そげ一こつ…そんな事を。

『子どもん目から』

バスに乗る機会がスクノウナッチ《少なくなつて》 整理券を  
取って降りる時に その券に合う料金を賃金箱に入れる。簡単な  
手順じあつてん 運転手は瞬時にそれらを見たり賃金の間違ひ  
ね一か《ないか》を 確認せにゃならん《しなくてはならない》  
それは仕事じ《で》あり それが人件費を押さえち《て》 料金を  
安くする苦勞が 滲みでちよる《でている》。じゃき《ですから》  
利用者も はっきり見ゆる 確実に入れるをして お互いが  
あかるう利用したいもん。

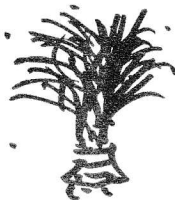
好かん梅雨じ《でも》 水不足ん田んぼにゃ 雨が待たれちよる。《待っている》 テマリコ《あじさい》ん花やら クチナシん花ども《などは》 香りもいいし色も鮮やか。ピワン黄色や山つづしん赤 桐ん花は薄い紫色 農村じゃ《では》色とりどりん花が 田植えじダッタ《疲れた》 人たちを慰むるごつ《慰めるように》 こげな花がソット咲いち 無言にエールを 送っちよる《送っている》。

50年はず《ほど》前まじゃ 畦から苗は投げこんじ 田の中に配च्छょくと《配っておくと》 済んだ田んぼから移った 人たちが田の中え入っち 旨い具合に配った苗を 引き寄せてちゃ手植えしち行く。時にゃ話したり 田植え歌を唄ったりもしち《して》 腰ん痛さも我慢しち どんどん植えちゃ サガッチユク《後下がりに植えつけて》。

腰ん痛さよ こん田の長さ 4月ヨイヨイ 5月の田の長さ 紺の前かけ 松葉の模様 こんに待っては 是非もない。

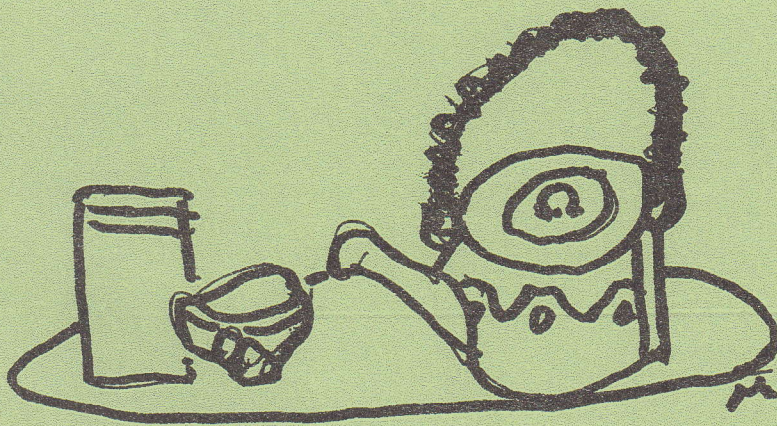
百姓ん辛さ 苦勞がこげな《こんな》 田植え仕事ん一つにも唄にしち《して》 我慢の道具に しょった《していた》。それも健康で働くことじ《で》 家族がイノチキ《セイカツ》が出来たからか。実際には厳しい 日々じゃつた《であった》けんど《けれど》 そげな《そんな》宿命でん《でも》 あったんじやろう《あったのです》。

でも苦勞した実りが 秋にはあるのは せめても嬉しい報いでんあった《でもあった》んです。それは雨の田植え 夏の暑さの草取り 秋の取り入れ そして雑穀 俵に詰めて めでたく完成した米俵にゃ 汗が染みこんじよる。それも時代ん流れじ 値段の安定価格じ厳しいが 作り出す喜びん感触は 宝物でんある。 田植え歌は民謡じゃねえ 生活ん声じあるき。





# 英語 俚語



11.



## 宿場街 野津原

肥後かる4日目 久住經由ん自領に入ると 上り下りん道も赤坂石だたみが オシマイじここかるは 平坦道路になる。一の瀬を渡りゃもう広い宿場町野津原。はじめはチット西ん 矢の原じゃったんがコカァ なんさま水ん便利が悪いき こき一変更した。野津原は東西北を 七瀬川が囲い南にゃ 戦国城趾ん愛宕山があっち防衛上じゃ 格好ん宿場街でんあった。

城趾ん池ん水ん排水路かる 東が『古町』じ そんな途中かる北に70Mほず 入った場所に『お茶屋』が 周囲に水う巡らしちのんぼりクン<sup>セリ</sup>セリ街道を 駕籠に揺られた4日ん ダリモここじゅっくり 抜けた事じゃろう。明日からは もうデーラ道じゃき寝ちょつてん いつんナカメーカ 鶴崎に行き着く。

折角ん地の利を生かさにゃと やんがち城趾ん排水路を埋めち西ん権現村寺町と繋いじ 宿場町本通り300Mが 開通したき道幅も4間半《約8M》それに両側水路つき 見事な広さが完成には 目を見張るもんがあっち 四百年ほず過ぎたが 当時んまに 残されちよる宿場町ん名残り。

さらに東は農村集落じゃつたき 道幅3間半《約7M》に住民を移動させ 農家じゃき間口は広く取った。西に伸ばしち直角を左折し ここにも道幅3間半《約7M》を 一の瀬渡しまじつけち 野津原宿場町約500Mが 開通したのも 清正が熊本領地に最初ここを通った 余韻があったからじゃろう。

鶴崎⇒野津原⇒今市經由⇒久住⇒熊本まじん 領地ん点と点を結ぶ英知は 親子で20余年じゃつたが こん間にも産業、経済、土地改良、教育、医療など 領民の生活環境は 一挙に改善向上したごたる。田舎じゃに都会ん匂いがする そげな雰囲気は故郷を 忍ぶ場所としては 格別じゃあったんじゃなかろうか。

お茶屋から出た本通り ここに『防火山』が3つ 不慮の火  
避け対策。連絡用としち⇒約3K離れた高台に『のろし台』  
もあり 久住、鶴崎に向けてん 即時連絡と別に早馬対応も。  
泊宿の場合は本通り 300Mの東《下げ簾戸》西《上簾戸》  
を 閉鎖して警護を厳しくした。

※ 西が上げ簾は 領地本丸がある方向だから。又帰還の際は  
西を開けて東は閉鎖したと言う。

5日目は鶴崎まで進んじ ここじ一泊する。翌日は鶴崎港かる  
御座船『波奈之丸』…ナミナシマル。が数十隻の軍団に守られ  
ち 海路浪花に向こった。後は東海道を江戸に。尚帰国ん順路  
はこれと 反対の道順じ野津原まじは平坦に。

野津原⇒鶴崎間は 臼杵領地、延岡領地、天領光吉、など他国  
領地を何回も交差しながら 進んだち言われる。

法護寺…清正が領主になっち 武蔵庵を移転しち寺を創建、後  
細川時代になって『法護寺』を創建 清正公堂も創建  
じ清正の霊も安置しち今日に。

野津原神社…清正の分霊を勧請した 夏祭りは感謝ん区内順幸  
じ盛大にされちよる。『清正公まつり』でんある。

郷土…肥後領地時代かる 教育熱が高くなっち それに伴う  
郷土とん連携協力が顕著じ つねに故郷づくりん成果  
も発揮しち来た。今も郷土愛は優れち 夏祭りに盆に  
ゃ帰らんでん 祭りにゃ帰る美風が残されちよる。

※ H16年には『大山車』の新装、H23年には『御輿』も  
新調して清正の情愛に 感謝の意志表しでもありそう。

往還田…江戸期間参勤交代道だったが 明治中期に国道開通で  
払い下げられたが 水田に利用などして『往還田』の  
愛称で 今も大事に護られている。★ 方言を使った  
部分があるき コラエチオクレな。



## 『孝女と大蛇のお話』

昔山向うん判田かる 野津原に気の優しい 娘が嫁に来ちよつた。そんな家にゃ年老いた おじいさんがおったんと。夫婦が野良仕事に出かくると おじいさんな 近くん山に行っち 木を切りで一ちや 炭を焼きよつたんと。

ある日のこと おじいさんが 山に木を切りに行ったところ 誤まっち木を背負った ままに下ん谷底に 滑り落ちちしもった。そんな日の夕方になってん おじいさんな 帰っちこんもんじゃき 家ん夫婦は心配しち 山道を あんげこんげ 捜しち歩き回つたら かすかに谷ん 方かるウメキ声がしよる。急いじ谷底におりると 倒れている おじいさんが 見つかった。

夫婦は苦しんじよる おじいさんぬ 急いで家に連れ帰り 手当てをしたんじゃが いつまでんウンウンち 言うばかりじゃった。

そげえしよつたら 嫁がふと打ち身にゆう 効く家伝の妙薬があるんを思いで一た。判田ん実家の近くにあるき 留守を夫に頼むと 銅製ん鏡を胸にさげち 一人じタイマツ頼りに 夜道を出かけた。女の一人旅あ そりゃもう 怖さもあるが 一人歩きがどんくれ オオゴトかが あんまりピント こんじゃつた。

大藪越しは昼でん 男一人でん寂しい場所 そげな道う女一人んしかも やんがち夜道になる おおごとん旅じゃつた。そげな所う嫁はもう おじいさんがん 傷が早うようなるごつ 真剣な思いじ先う急いだ。一時歩くともう 体じゅうかる 汗がにじみで一た。それでん嫁はタイマツん 明かりう頼りに急いだ。

少しあるいた所 ふっと前を見ると 大蛇が道をふさいじよる。大蛇はタイマツん 火がおじいんか それとん鏡に写つた 自分が

ん姿が恐ろしいんか いっこうに向かち こんじゃつた。じつと動かんき 『あなたは ここの主ですか 私は先を急いでいますので どうか道をあけち くれませんか』 嫁は自分の用事をはなしたところ 大蛇は『ついて来い』ち 言うように 尾を振つておった。

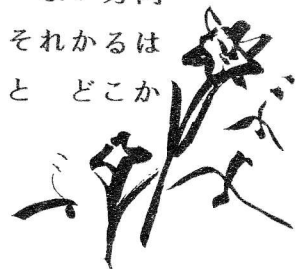
前に進んじ行く大蛇の後を 嫁も真剣な思いじ 進みました。大蛇の道案内ん おかげじ夜が明けんうち 目的ん望に無事つきほっと 嫁は安心したが そんな途端にフニャフニャと 倒れそうになったんと。じゃろうなえ 女一人が 気丈に山道を歩く そしち 大蛇に出会い もしやち思うたのに 道案内を しちくれた。

そしち葉を別けち もらうと急いじ おじいさんの待つ わが家に持ち帰り 打ち身の手当てを したそうな。なんと健気な話じゃねえ。

おかげじ おじいさんは たいそう元気になったんと。皆んなは大喜びしました。嫁が大蛇に出会った頃 おじいさんぬ 見ていた夫は 金色に輝く大蛇が 隣村まじ案内しちよる そげな夢を見たち言う。

女一人が夜の山道を 6時間もかけち 歩き続けた嫁ん 親孝行に 大蛇も心打たれち きっと加勢せにゃち 道案内を しちくれたんじゃ あるめ一か。若い嫁さんの 心の豊かさ優しさに 怖いと思う 大蛇でも 喜んで加勢する 世の中はそげなふう に 決まっている。ただそれを知らない しないだけんこと。

話せば 聞けば みんな助け会う 気持ちがあいぢ よい方向に動くんが 世の習わしと申します。おじいさんも それかるは元気に 用心しながら 精出したそうな。大蛇もきっと どこか  
じ喜んで くれよるち思うが。



△△△ 方言説明 △△△

1 1 p オシマイジ…終わりで。ここかるが…ここからは新たな。チット…少し。コカァ…ここは。なんさま…何分にも。のんびりクダセリ…のんびりや下り坂などが。タリモここじ…つかれもここまでくると 抜けて楽になる。デーラ道…たいらな不当の道路に。いつんナカメーカ…シラヌマニ過ぎ去って。やんがち…やがて。じゃつたき…でしたから。からじゃろう…からでしょう。そげな…そんな。なかろうか…ないでしょうか。

1 2 P 防火山…火災の時に遮断する役目の 防火壁の役目で横高さが3メートルほど 長さが7メートルぐらいの土固まりに木が植わっている。コラエチオクレナ…我慢してくださいね。

1 3 P おったんと…いましたのです。でーちゃ…出しては。もんじゃき…ものですから。あんげこんげ…あっちやこっちと右往左往する様。ウメキ声…苦しんで発する声。ウンウンち…苦しいので声にはならぬような発声。そげーしょつたら…そうしていたら。打ち身…打撲症状。タイマツ…松の根を材料にしたかがり火。そりゃもう…それはそれは大変で。どんくれ…どのくらい。こんじゃつた…こなかった。そげな…そんな。やんがち…やがて。おじいんか…爺いのか。

1 4 P 向こうち…こちらに向かつては。こんじゃつた…こなかった。くれませんが…しれないけれど。フニャフニャ…疲労困ぱいで座り込むような 状態。

方言の説明には場合によっては ことなる意味にもなりますがその底流には 思いやりの心情があります。

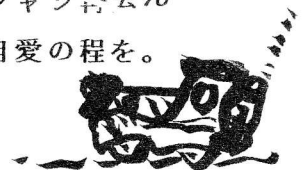
13p⇒14Pに掲載 『孝女と大蛇のお話』お 野津原  
伝統文化継承の会が 野津原支所の企画で発行したもので こ  
ん冊子にゃこげな 民話が15編あり さらに方言調に掲載も  
6編が 掲載されちよります。野津原町時代に 収拾したもん  
から 選別した民話だけに 多くの人たちが聞いて 過ごした  
もんです。

現在ん小学校などでん 読み聞かせ 読み語りなんかにも  
利用されち 故郷にあった話を 聞くことじ故郷を 愛する心  
も育ちいるようです。とくに最近は方言も 重きをおかれち  
どこでも 方言が大事にされよるんも 嬉しい限りです。故郷  
訛は国の手形ち 言うごつ離れちこす 故郷が見つめ直される  
ようです。方言集は関東地方にも 発送されています。

清正公まつりに帰郷する 盆にゃ帰れなくても 祭りにゃ何  
とかしたい 人情がそげ一さするんか。素晴らしい事である  
ようです。

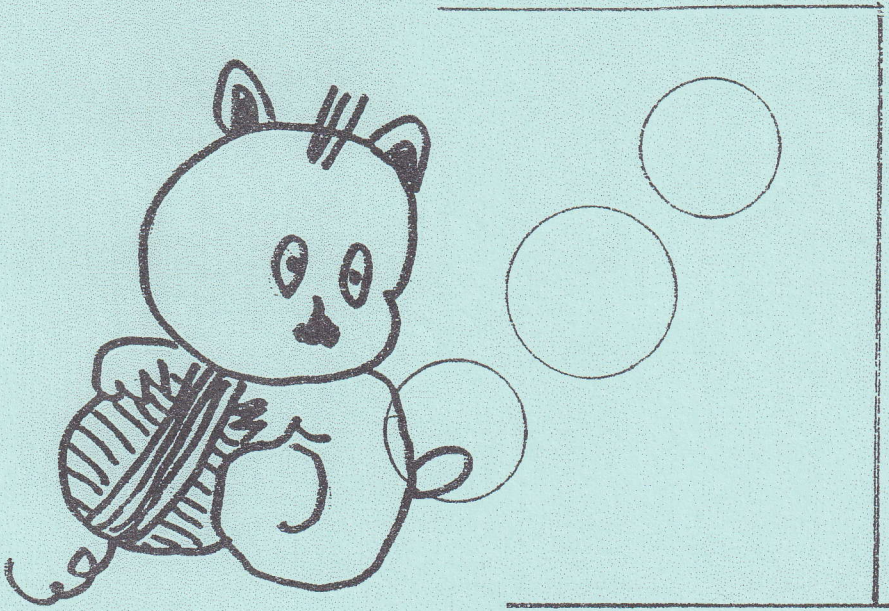
別の欄に今回じ4回目になる 五助街道宇曾山物語が 人気  
を呼んで知らない事ん多い 故郷自慢ができるち 喜んじくれ  
ます。『そげな事じゃつたんな ありゃ聞いた事があった』ち  
次が待たるるち 嬉しい励ましに会員も フアイト湧かせます  
。『宝の玉手箱』にも 昔懐かしい話題が つぎつぎと途場し  
ち 素朴な素人集団の 手づくり冊子が輝くごたる感触。あり  
がて一気持ちにしちくるる 愛読者の皆様に感謝感激です。

健康管理に心くばりしち お元気に野津原ん為に ご努力ん  
ほどうお願い申し上げます。たった一度きりん人生 心豊かに  
お元気で皆んなが 幸せ人生じありたいものです。病気、怪我  
、事故、火災、交通事故に 遭遇せんごつ タツシャジ再会ん  
日を 楽しみに会員一同も ハリコミマスキ ご自愛の程を。





# 女性の底力





## たゆまぬ努力は報いられるもの

気丈で優しくおおらかな 舅であってん生まれ着いた農家ん  
たくましい労力は自然と 備わっち病気なんか夢にも思わんじゃ  
ったもん病魔たあ 選ばんでん入りこむ宿命。高齢と共にそれが  
現実にも現れて 人生後半じ惜しまれながらん 体調の不具合は  
はどうにもならんこち。

健気な介護の中じ厳しいが 自助努力ををできるだけ 体験させ  
ち方法を取り入れち 入院退院の繰り返しが続くが 当人の理解  
がよけりゃち思っせん 誤解さるんが世の常。献身的な真髄はや  
つば 当人でねえと解らん悲しさ。そりゅう乗り越えちこすん  
情愛も理解されるるごたる。

若え嫁に介護されんも 心が通じ合うちこす 回復に辿りつく  
妙案でんあろうが 厳しい介護ん世話となりゃ 厳しさも邪魔う  
する事だちあるもん。でも真心はそりゅう きちんと整理する  
強い力も 自然に熟成された時間は 嬉しい扱いが評価もされた  
● 静養に効果が発揮されち 感謝する安らぎも覚えたごたる。

甘やかす事が決して介護じゃねえ じゃが他人じゃった嫁舅の  
立場の 壁や他人の口にゃ戸は立てられんし。そりー苦難を乗り  
こえるかが 嫁にしてん大変ごたる。受ける側にしてんやっば  
『言いたい放題でんならんし』 義理な梓が邪魔もするもん 家  
族である今ん心情は 全治快癒が一番望ましいもん。

家庭内で世話してえ そげな思いじ入院は短こうち思う反面に  
は苦痛がしわ寄せになるめーか。当人の気持ちも大事にしたい  
それらの葛藤は義理だけに 大きくのしかかるもの。無事に全治  
なら問題ないがと 苦悶も続く悲しさ。これが人生かもしれない  
が。

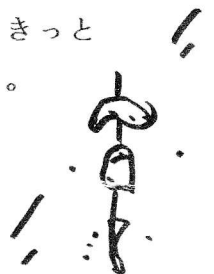
忙しいけど午前中にと 早くかる起きちよるき 先に診察に  
でると生憎外来も多い。けど待たにゃイツキテン 同じ問題が  
のしかがるもんじゃ。えーと診察が済み『こんままだいっとき』  
それを聞くと ほっとするんも束の間 もう自由にしたい気持ち  
が 忙しゅ介護するそげな 気持ちはソッチノケじ現れる。

家に帰ると朝んしかけた仕事が アクビするごつ待ちよる。  
『ちよいと片づけするきな』それが聞こえたんか 聞こえん  
かキヨロキヨロ見回し 自分本位ん事が目に 脳裏を刺激するん  
か。次ん用事にアブネ 行こどちする。『ちよいと待ってな』  
そりゃもう おそらく聞こえねえんか。立ちかけたが杖だけじゃ  
アブネェ。

エート言い聞かせち 椅子にかけさすると 井戸端ん片づけか  
る はだしになっち駆け回るが それが見えると ワズラワシイ  
んか 又たちあがろうとする。バケラシイ ジットシチヲツチ。  
心ん声がおらびとうなる。がここが我慢せにゃち 言い聞かせち  
洗い物を干すと 滴がポタポタリ そりゅう見るにつけてん 荷  
か哀れも感じる。人間の厳しい現実ん世界。

『大変じゃなァ でんここが我慢のシドコロで』『はい 解っ  
ているんです』 涙をためたまぶたに光るもん。そりゃー悔しい  
んじゃねえ 病人の辛さが耐え切れぬごつ 若い自分も代わっち  
あげてー…とん思い変える。なし病気があるんか なし人間な病  
気するんか。

『みんな好きじするんじゃねえが なった宿命じゃ なかろう  
か』『じゃろうか』 健康な時に病気の用心 日頃ん健康管理を  
する事じ ちったそれも予防出来るち思うが。それだけじゃねえ  
事もあるんが こん世の中じゃろうなァ。『頑張りよえ きっと  
いい報いもあるもんじゃき』『でしょうね』 やっと笑顔に。



## 『母の介護の姉妹作戦』

頑健な母も高齢化社会の 仲間にはいったんか 時折愚痴が多  
くなったんじ それとなく探るとやっぱ 弱りが見えて一たち  
首を傾けたあたりゃ 『気をつけたんがいいんじゃあるめーか』  
定年退職したのもあっち 姉妹じ相談もしち 家族にも話した。  
若い時かる留守番と 野仕事は一手に受け持った 気丈な母親。

足がチット悪くなっち 笑い飛ばしよったが 無理すりゃ腰ん  
痛みも引き連れち出る。それでん若さがあっちか チット用心し  
よると不思議と ゆうなるもんじゃき 『まっしょわねえわい』  
が くり返されよると 無理んタンコブが 積もच्चくる。無理  
したんじやろう 『せんで』 やり取りが時折あった。

ガソリンスタンドん 仕事ん頃んちゃ忙しい仕事も ハダマ仕事  
じゃきショワネエデ 元気印じゃったが 年とともに ちっと弱  
うなったぬみると 『時折介護に加勢する』『いいで』 姉妹も  
あげー頑張ったに 年う取っちまじ無理さすりゃち 母思う情愛  
が顔覗かせ にじみ出る。

家族も『そりゃー加勢しちやりゃ どげえ』 快ゆう賛成しち  
くるるき 手遅れにならん今が いちばんいい旬じゃ。元気な時  
かる慣れ親しむんが 介護ん成功率がいいそうな。姉妹じ交替に  
家に住み込み 母親ん自主性には任せち 出来ん分の加勢かる  
始まった。

高校大学と通った時代は 母親がまるじ下宿人のごつ 丁寧に  
世話しちくれたが そげな万分の一ん事ゃ 出来んかん知れん。  
がそん気持ち 誠意がありゃそれも 認めちくるるんじゃねえ。  
そして外来にも行く事も 歩行に苦をみりゃ 使い走りもある介  
護生活本番が スタートしたモンジャキ……。



キンジョンしたちが 集金にやっち来た。『あら今日も加勢な  
カアチャンな』 『今日は足ん調子がいいき おかず作るんと』  
『りゃーじっとシチョルンガ 好かんしじゃつたきなぁ』 皆ん  
なん役に立つんなら しちよかにゃ いつ世話になるか解らんさ  
なえ』 気さくに笑い飛ばす そんな性格が人に好かる。

近所んしにそげ一言わるりゃ 娘にしちみりゃ 嬉しい事でん  
あっち 子にゃ知れん苦勞した母親ん 後ろ姿うしみじみ見た。  
『あんたどうに 介護しちもらうなんか』 遠慮がちに笑いなが  
ら言うと 『じゃけんど うっとどうも 介護出来るごつ 母親  
が長生きしちよる 幸せも味わいよるんで。

『じゃなァ いまこげ一世話しちくれよる そげなんを孫が  
見ると こんだ孫が先じ世話しち くるるわな』 『……』 返事  
はなかったが 母親の介護する 今ん自分たちが やんがち介護  
さるるんか そげ一思うと人生は 回ら回った世界でんあり 又  
ささえられちこす 生きられる世界でんある。ち思うようじゃ。

『気分などげ一な』 『今日はなんか 気分がいいわな お前ど  
うも ゆっくりヨコイヨ』 『りゃー方言が出たで 懐かしい』  
『そげ一タマガランデン こんめ一時ゃユウ 使いよったこと』  
『ちゃーそ一かなー もう忘れたが』 『無理もねえなァ 50年  
も過ぎたんじゃきなァ』 大笑いん声が 裏山に響くごたる の  
どかなひとときでんあった。

太鼓が聞こえて一た 『もうすぐ清正公まつりじゃなァ』 御輿  
が 『ゆう橋ん下じ川に入っち 濡れたまんまじ来たなえ』 『そ  
うそう あん時ゃオズカッタ』 『コンマかったきなァ』 『そげ一  
コンマカッタ』 『インニャ そげ一コンモはなかったで』 母親  
はイサギユ 訂正したんは 成長した娘ん人権ぬ 尊重したきじ  
ゃろう。今が一番幸せな 介護ん合間ん 楽しい一時。



◇◇◇ 感謝のお返し奉仕 ◇◇◇

念願の子どもの大学卒業が無事できたら『感謝のお返し奉仕とよう』と創業当時に決めた誓詞が32年目にしちやっとそれが実っち実行になったんも多くの顧客との長い好誼がありゃこすじ苦労したそん年月ん長さに比べてん相手とん信頼ゃ支援しちくるる高貴な人の心がどうくれ大きゅうじ指導されたもんか。

人間たぁいかに弱く知らんづくめなチッポケナ動物にしか過ぎんじゃつたち思う。始めちん来店の人は年輪重ねた近くん人。近所付き合い以上ん心情がそげーさせたち言う。『はじめちん店じゃき賑わいにも……』多少は謙遜でんあったんじゃろうがそげな思いやりん人ん来店は将来ん顧客ん結びつきに大きな役割も果たしちくるる。

物珍しさの顧客もあるし飛び込みん人もあった。冷やかしはねえけんど覗き込むそげな人もやんがちしち本心を伺った時日頃往生ん有難さも骨の髄まじ響くもの。思っ言える付き合い仲間の苦言も褒めすぎられる苦情も良薬は薬として受けたあの日あん時がいまになると感謝んほかない妙薬になっちよる。ち振り返る夜の家族ん語らい。

『ご苦労様』ふと家族から言われたのは誕生日だったがそんな事なんかは子どもの祝い以外は忘れるぐらい慌ただしい32年間はあっと過ぎ去ったごたる。が誓詞の約束が実現できたそん日家族で決断して『感謝のお返し奉仕』を実践商品価格を2000円に即決。タマガッタ娘がなんちゅうたち思う『やっぱ私の母親ありがとう』親子が目頭押さえちビールがそつと父親に注がれよった。

感謝ちゅうてん一口にゃ いろいろあるけど 要は気持ち  
んお返しじゃあるめ一か。有難いち思う気持ちが そんなま表  
に出ち心が後ろにひかえちよる。そこに人間の赤裸々な思いが  
相手に伝わるわけ。口だけでん取り急ぎ言う そりゅう田舎じ  
ゃ口見舞いち言うが それだけだん 真心がありゃもう十分  
相手に気持ちが伝わっちよる。

あれこけ考えよったら 肝心な時が過ぎち時期が遅れた。そ  
れじゃ倍ん物でん 品祖に見ゆるもん。思ったそんな時ん心情が  
時にゃ 助け船になったりもする。顧客が集まる機会が多いき  
話題も豊富に聞き知る機会にもなる。情報源にも事欠かない  
じゃろうが ここじ筒抜けになったりすると 信頼丸潰れにも  
なる。

3 2年間ゆう皆さんが利用しちくれた 感謝の誓詞を作っち  
よかったと しみじみ思う時 人間は区切りに何かを決めるん  
も いいような気がするんじゃが。娘もこげな話があったき  
頑張るそれもできたんかも。そげな世相ん無限の支援は 自然  
と肌伝わり意欲も駆り立て 自分もしらずの間に 跳躍しち  
おったこちになっちよる。

頑張る感謝の気持ち 並大抵じゃねえかん。でんやる気があ  
るなら出来ぬ 相談でんねえごたる。これからはその分がマイ  
ナス収入かん知れん。が損したち思うんはチツ早いち思う。損  
にゃ現在社会ん損と 経済の損と心の損がある。が心ん損はし  
たどころか 反対に心ん豊かさがプラスになっちよる。

次の予定はないでも今の気持ち 大事にする事じ生涯には  
心ん豊かさかき湧き出る プラスは物や金じゃ 変えられん大  
けな幸せん夢があるんじゃ なかるうか。





# 方言集





◁◁◁ 方言単語のひろがり ▷▷▷

野津原で古くから使われている 生活用語の方言を 収拾して約25年 素人がまとめた『方言集』 前回No.23号まで掲載が『あ』⇒『た』の『こ』まで 19126語入りました。今回もその続きを入れてあります。方言集と申しましても 素人集団の取り組みですから 必ずしも方言でないもの 差別用語 卑下する方言なども 入っていますが 方言集の性格上入っています。ご了承ください。

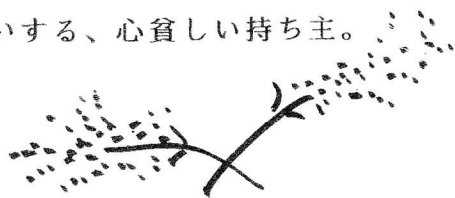
た タケル………時期が過ぎて固くなる、背たけがたかくなって。  
タケチ………時期がすぎて、食べるには少し過ぎた、時期遅れ。  
タケメー…炊けないのでは、炊けないと思うが、時期が過ぎ。  
タケン………炊けないから、炊けません。  
タゴシジ…田の境を越えて、畦を越えた田んぼ、畦越しの田。  
タコニュードウ………たこ、大きな目を開いたたこの形相。  
タゴウチ…筋を違えて、捻挫して痛む、互いにナラビ変わり。  
タコーアギー………凧揚げを、凧をあげて遊ぶ。  
タゴケーチ………捻挫して、筋を痛めて。  
タゴンワガエ…肥やし桶の輪かえ、竹の縄で作った輪を変え。

タコトマル………理想家横暴な格好、威張っている風格。  
タゴカタギユ…肥桶を担いで運ぶ、肥やしを桶で継ぎ足して。  
タコクグッチ…威張った素振りの、偉ぶっても人が認めない。  
タゴ………肥やし桶、肥やしを運ぶのに使う桶。  
タサン………足しませんので、足さない、補充しない。加えぬ。  
タザガイ………黙って食べる、無料で食べる、盗み食い。  
タザサキュ………ただで酒を飲む、無料で酒をよばれる。  
ダシキンワキ………座敷の側に、座敷の回りに、座敷の外側。  
タシダンジョウズ………計算がなかなかうまい、計算がうまい。  
ダシアイビカリ………割り勘の出しあい、平等負担で、同額に。

た タジチャレ……馬の足を暖めて疲れを取る、疲労回復療法。  
タジロカニャ……落ち着いて動かねば、動こうとしないなら。  
タシナラン……役立たないなら、補充の役にならねば。  
タジリーた……田んぼが湿気で、田が乾かないので。  
タシタラヒケ……多くなったら減らす、旨く合わせてこそ。  
タシナァ……足したらよいのでは、加えて見れば、追加する。  
タシカミ……確認したら、間違いがなければ、正確ならよし。  
タシニシチ……足しにして満足、不足は便法で補充する。  
タジナメチ……上手に言い含めて、具合よく説明して。  
タジメリャ……言い聞かせたら、言えば解るもので。

ダシニャナルメ……あまり役にはたつまい、使い方でも無理か。  
タシチョル……たしているから、加えてあるから、補充して。  
タスナ……足しないこと、加えても無駄に、そのままでよい。  
タズヌリャ……尋ねて見たら、尋ねて見たものの、不明だった。  
タスヌ……加えたのに、くわえてあったはずだが、増加したが。  
タズリャ……暖めてやれば、暖めた効果があったよう。  
タスクルキ……助けてくれるから、お互いに支え合う、互助心。  
タズクリャ……田んぼ仕事は、野良仕事の苦労は、体験が必要。  
タスグレハ……足すだけなら、増加するのは、加えても無理か。  
タズネモウサン……尋ねても無理だった、不明な人調べ。

タズネダッチ……尋ね歩いて疲れる、足が棒のようになる。  
ダスメ……出さないだろう、出させるのは無理、けちだから。  
ダスヤ……だすのですか、だしてもよいが、出せないから。  
ダスル……出せる、出してもよいが、出すことには。  
タズノー……手綱を取って、馬子が唄った、手綱が小道具。  
ダスコタ……出すことは、出しますから、だすのに賛成。  
タゼチョケ……暖めてください、優しくいただける手入れ。  
タゼマワス……暖めてみんなで大事に馬も家族の一員。  
タセセリ……田んぼの境界を無理強いする、心貧しい持ち主。



た タソモンナラ……足したとすれば、足すのも意義がある。  
タゾッチョケ……見比べて見る、後を追跡して。  
タゾラルリヤ……辿ってゆけるものなら、後を追跡して。  
タソードチ……加えたいと、追加しておきたい、加えます。  
タソダチ……田によく似合うので、田のなかでこそ育つもの。  
タソヤ……足しましょう、たしていっぱい、増加。  
タゾッタ……追跡したら、後追いかけて、追求したら。  
タダデン……無料であっても、いっそ差上げたのが。  
タタキヤイー……たたき合うので怖い、喧嘩も激しい場合。  
タタキユウ……叩き料理もおつなもの、叩いて味を染みこませ。

タダゴトジヤ……不安がつまった、予想以上の、予期せぬ珍事。  
タタカレン……叩かれぬ、値切られぬ、せぶれぬ。  
タダグレ……無料ほど高いものになりそう、予想の裏腹。  
タタキマエーチ……叩いていじめる、悪質な喧嘩、非常識。  
タタクキ……叩くものですから、ひどいいじめ、異常な喧嘩。  
タタンデン……畳んであっても、畳んで整理したが。  
タチガワリ……性格が悪質で、非常識ないたずら。  
タチマワリヤ……早めに手を打って、気早い作戦、先手手法。  
ダチントリヤ……荷物運びで代償受ける、駄賃をもらう仕事。  
タチワキヤ……鉈豆、花が順に咲いて元に戻る得意性、戻る運。

タチヤワルネエ……性格は悪くはない、単純な性格、悪気なし。  
タチヨルキ……お邪魔しますから、少し立ち寄り、予告して。  
ダチニヤ……伊達にはしない、伊達に威張るのではない。  
タチツバナシ……立ったままで、座らないで、自制心が強い。  
タチバナシユ……立ったままの雑談、話に花が咲く。  
タチダツタ……立ったままで疲れる、同じ姿勢で疲れが。  
タチメーカ……立たないでよいの、たって交替しない。  
タチンワリ……性質の悪い、性格が純情でない、悪質性格。  
タチキリヤ……立てますか、たつのが無理なら、立てれば。

た タッタナイイガ…… たったのはよいけれど、立つだけの勇氣。  
タッテン…… たっていても、たつだけなら、たっても役立たず。  
タツグレナラ…… たつのなら何か、たてば用事もしたら。  
タツノ…… 手綱を取って、手綱が役する。手綱裁きが有名。  
ダッタンジャ…… 疲れたのか、疲労がたまって、暫くお休み。  
ダツ…… 目の不自由な、目の不具合は気のどくな。  
ダッチョリヤ…… 疲れているのなら、少し休めば元気に。  
ダツカイガ…… 牛馬を使うので、牛馬のせわをして。  
ダッタネキ…… 疲れていたのに、疲れた側に寄り添い。  
タツデン…… 疲れても休めぬ、疲れが取れたら、一休みして。

タッチョカニヤ…… 立っていないと、立ってみていれば。  
タッタマメ…… 立っているままに、立っていれば見える。  
タッタキ…… たったので大丈夫、たっていればもう元気。  
タッタイッペン…… 一回だけでも、たった一度きりの人生。  
タッチョリヤ…… たっていると楽で、たっていると丸見えで。  
タッタナイイガ…… たったのはよいが、たったらやはり不安。  
タッテン…… たっていても、立つとやはり不安定で。  
タッタイマン…… 今すぐ前に、それこそ今帰ったばかりに。  
タットン…… 立てますよ、たっても大丈夫、たてます。  
タツクレナラ…… 立つようでしたら、たてるなら、たてます。

ダテンジョ…… 見せかけだけで、見られ上手の、派手な格好で。  
タテレメ…… 立てないのでは、立てますか不安で、無理か。  
ダテサビ…… だて者も寒さにも我慢、見せぶらかしは損する。  
ダテシャ…… 伊達な格好で歩き、見せぶらかしても。  
ダテンワリニヤ…… だて者んわりにゃひんそ、見かけ倒しじゃ。  
タデマエーチ…… お湯で疲れを癒して、熱心に暖めてあげ。  
タテボウ…… 馬車の荷台の脇に立てた棒、荷物が落下を防ぐ。  
タテーチ…… 叩いて困らせる、叩く癖があって困る。  
タテレンナ…… たてませんか、立てないようですか、立てない。





た タテツツケ……引き続き、待たずに引き続く、つぎつぎに。  
タテレメー……たてないのでは、立てますか、立てないよう。  
タトドチ…立ちたいと、立つと思っているのに、たったかな。  
タトジョキヤ………たたんでおけば、たたんで始末する。  
タドラニヤ………辿って確認を、たどれば見つかる。  
タドリヤ………辿って行けば発見、確認して見つけ出す。  
タドッチ………たどって行く、辿れば確認が出来る。  
タドコラ…田んぼの多い地域、農村地帯の風景、田畑が多い。  
タナミモ………すばらしい田園風景、美しく田が並んでいる。  
タナミヤ………田が並んだ風景、田が書いたように並んで。

タナラビヤ…田が行儀よく並んで、田んぼの多い地域の風景。  
タナシデン………田んぼがなくても、田は持っていないが。  
タナバト………七夕飾りが美しい、七夕に喜ぶ子どもたち。  
タナカル………棚から下ろして、棚があったのを忘れて物探し。  
タナドマ………棚の有難さに感謝、棚も大切な場所。  
タナミュ………田が整然と並んだ光景、田が美しく並んで。  
タニヤノコセ………種は残さないと来年困る、種の確保を。  
ダニガオツル………害虫が落ちて安心する、病害予防の徹底。  
タニヤマカニヤ………種は撒かねば生えない、種まき半作。  
タニユアキ………谷はあけて風通しを、谷が空気の流通を。

タニンナイワン…他人はにくたれ言わぬ、嫌い口は言わない。  
タニベラ………谷の回り、谷の側、たにがそばにある場所。  
タニンデン………他人であっても信頼、他人だから言える事も。  
タニゾキ………谷の底に案外、谷の回りには宝物も、谷の役割。  
タニンジャキ…他人が故に、遠慮もする、厳しく教えてくれ。  
タニクロヤマ………女性陰部に黒いヘアーも、隠す上品さ。  
タニンアノ………陰部の穴、大切な性器の一部分、宝物の存在。  
タニベロ………股間の周辺、大切な場所だから清潔に、宝物。  
タニデ Chol…陰核の部分、大切な性器の一部、大事にして。

た タヌマルリヤ……頼まれたなら、依頼された場合は、信頼が。  
タヌージョキヤ……頼んでおけば大丈夫、信用が出来るから。  
タヌンナイイガ………尋ねるのはよいが、聞いてみたら。  
タヌリヤヨコブ………尋ねると喜ぶが、待っているかも。  
タヌルミマイ…気使って聞いて見れば、心配しての聞き取り。  
タヌーダンカ………頼んだのなら、依頼すれば喜ぶと思う。  
タヌージョロー………頼んでおいたら、お願いしておけば。  
タヌジョケ………頼んでおきなさい、依頼すれば喜ぶと思う。  
タネドマ………種などは、種は大事に保存しないと。  
タネノアキ……種は季節に敏感、種の確保と季節に合わせて。

タネラルリヤ……尋ねられたら、聞かれたら信頼があるから。  
タネチヨケ………聞いて見ておくと、確認して後の整理を。  
タネチミヨ…聞いてみれば。尋ねて確認を、聞くことの大切。  
タネリ………ゴザ作りに使う縦糸、畳表作りの材料の一つ。  
タネウシネ………うっかり撒いたのに発芽しない、撒きかたが。  
タネマキヤ………種撒きは慎重に、適季を違わぬように。  
タネタナイイガ………聞いたのはよいが、聞き違うと大変な。  
タネナオセ………聞き直さないと間違う、確実に聞いてみる。  
タネント………聞かないと、確認しないと、慌てて聞くと失敗。  
タネチコス………きいてこそよかった、確実に聞いて確認を。

ダノモンヌ………牛馬の飼料、家畜に食べさせるもの。  
ダノクビ牛………馬の首、家族同様の家畜は大切。  
タノナゴ…田んぼの中を、たの畦道を通る、田んぼを横切る。  
タノワキヤ………田の畦道、田の回り道を、田の周辺の光景。  
タノクソ………田の草取り、田の中の除草作業、雑草取り。  
タノクラ………用心しないと滑る危険、歩くのに注意を。  
タノスミ………田の隅っこ、田の片隅、田のはつ端っこ。  
タノマルリヤ…依頼されると、頼まれると、信頼があるから。  
タバイガイイ…蓄えている、辛抱して備蓄する、用心の為に。



た タバニユ……束ねてください、結束するので、まとめて束に。  
タバニスリヤイイ……束ねて保管する、たばにすれば便利。  
タビユ……食べましょう、旅に出かけます、たべたらどう。  
タビタビン……いつも繰り返して、何回も何回も続く。  
タビンミヤギユ……旅のおみやげで、旅から帰った土産物。  
タビジヤキ……旅ですから、足袋ですから、食べなさいだから。  
タビハツカイ……足袋を履き変えて、足袋を取り替えて。  
タブルカ……食べますか、食べてもよいから、食事はどう。  
タブリヤイイ……食べたらどうですか、食べておいたが。  
タブラケーチ……嘘で誤魔化して誘う、旨い誘いに引きこんで。

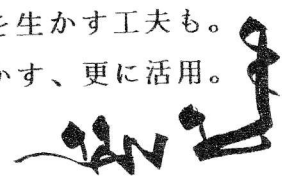
タブンナケ……食べる仲間に入って、竹製の入れ物に保管して。  
タブラカス……悪誘いに引きこまれて、誤魔化されて。  
タブルソベ……食べている側において、食べたような状況で。  
タブルワキ……たべている側で、食べたいのではないの。  
タブウチョケ……蓄えておけば、備蓄も大事な生活理論。  
ダブダブン……ふっくら膨れた状態の、大きすぎる衣類に。  
タブレメ……食べれないですか、食べたくないのですか。  
タヘラクイウ……自慢話しに嫌気が、自分の自慢は相手せず。  
タベタナ……食べましたか、食べたようなら出かけますか。  
タベチョキヤ……食べておけば元気がいい、食べれることは。

タベルルキ……食べれますなら健康、食べてこそ元気の源。  
タブレんキ……食べれないようでは、たべないと元気になれぬ。  
タベルルカ……食べれますか、たべれるなら健康ですよ。  
ダブレんカ……食べれないようでは、たべておかないと不安。  
タベオーケ……思わず腹いっぱい、予想以上に満腹になる。  
タヘラカ……自慢話は嫌われる、手前勝手自慢は敬遠される。  
タベタガツチ……食べたい欲望が強くて、食欲が旺盛で。  
タブレニヤ……食べれないなら時間をさげて、後でゆっくり。  
タベソコノチ……食べる時間がなくて、時間に追われてつい。

た タベヨセン……食べる時間がないので、後で食べることに。  
タベタンカ…食べましたか、食べたのですか、食事にしたら。  
タボウ…節約して蓄える、辛抱してつつましく、勤儉貯蓄。  
タポーノ……辛抱しておかねば、蓄えは大事な生活理論。  
タボウチヨケ……蓄えておけば安心、備蓄がないと不安で。  
タボヤコス…蓄えがあれば安心生活、辛抱すれば自ずと残る。  
タボウチヨリヤ……助け合っているば、お互いが支え合えば。  
タボタナ……辛抱したのは、節約したから、備蓄こそ宝物。  
ダボウチミヨ……辛抱して見れば、蓄えはけちではない。  
タボウチヨケ……備蓄してあれば不安もない、少しずつでも。

タマロウドチ…たまったのも日ごろの心がけ、細心の習慣を。  
ダマクラケーチ……誤魔化したり、悪質な方法はばれるもの。  
ダマシウツタツル…急に積み重ねる、重ねる事も大事な方法。  
タマガツチ……びっくりして、慌てたのでは足もとが不安。  
タマニヤイイ…時には法外な事も方便、日頃は往生のたとえ。  
タマニヤ……時には便法も、日頃の行いが信頼に結びつく。  
タマガツタヒョウシ……びっくりした刹那に、慌ては不足に。  
タマサカ……予期せぬ時になって、予想以上の番狂わせ。  
タマローゴタツチ…多くなるようでなかなか、予想とは裏腹。  
タマランノ…溜まらないのは出が多いから、収支の感覚。

タマサカン……予期せぬ時の失態、日頃からの試練が肝心。  
タマガル……びっくりしてしまう、予期しない事があるもの。  
タマデン…時たまでも失態は失態、常日ごろの試練に馴染む。  
タマラン……溜まらない原因は、使わぬ方法の研究も。  
タミナリャコス……為になる理由は、大切に育てる事。  
タミナラン…為にならないときに理由の研究、不要はない。  
タミニャナランデン……使い道の研究も、不用品はない世間。  
タミナルキ……為になる理由の研究、それを生かす工夫も。  
タミナツ Chol……利用価値がある点を生かす、更に活用。





た タミコス……為にこそなる、役にたつので、利用価値がある。  
タミナル………為になって助かる、思わぬ味方があって。  
タムリヤ………貯めておけば間に合う、急な用事に助かる。  
タムリヤコス……貯めておけばこそ恥もかかず、備蓄は宝物。  
タムルナヤオネエ………備蓄は大変だが、日頃の準備が肝心。  
タムルソバカル……貯めたのはよいが浪費癖が、収支の経済。  
タムンナ………貯めるのは難問題、貯めなくてもでは火急に。  
タメチョリヤ………貯めておけばこそ、常日ごろの心がけが。  
タメリユウカ……貯められましょうか、やる気の問題だから。  
タメチョキャ………貯めて置くことで信頼も、難儀な時でも。

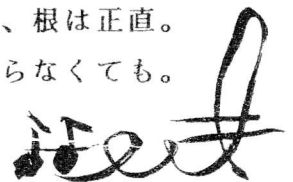
タメグソ……便秘して纏まって排便、備蓄癖が思わぬ効果に。  
タメレンノウ………貯められないよう、貯めるまでの余裕が。  
ダモーミヨ…雑多な生活環境で目もそむけ、人並みの生活を。  
ダモヘーチョケ…座敷も掃いておきなさい、家の中の掃除を。  
タモタオミー………袂の重さは何か、常識を越えないように。  
タモゴウ………卵をほしいが、卵分けてもらえないか。  
タモー………玉を使った、玉が重要な役割をするので。  
タモレンツクロイ…水漏れ田の修復、早めの手当てが助かる。  
タヤサンゴツ………絶やさないように、絶えたら大変だから。  
タヤラカス………倒して無難に終わった、倒せば万事解決する。

タヤシチ………倒した方が勝ち、失ったら大事になる。  
タヤスンカ………倒したら満点、絶やすと元には難しい。  
タヤスユウナ…気安く言うと元に戻せぬ、言うたら終わりに。  
タヤシイナ………簡単な仕事のように、気軽に出来た仕事だった。  
タヤラケーチ…倒したものだから、倒すと起こすのに骨折る。  
ダヤラ………座敷やら外巡りやら、座敷や板の間などの。  
タヤケーチモウ………絶えてしまって困る、無くなったので。  
タヤラ………田やら畑なども、田んぼだけでなく山も入る。  
タヤスイインカ…簡単に言うがよいのですか、簡単すぎない。

た タヨラルリャ……頼られていると、依頼されては、信頼され。  
タヨッチョル……頼っているので、信頼があるから心配ない。  
タヨンナ……頼らないがよい、頼ってゐる後が大変、前後考え。  
ダワメキャ……煩いような雲行きだから、異常な雰囲気のように。  
ダワヤク……雑音が入って不安も、慎重にしないと後で恥かき。  
タンビタンビ……度々の事で不安もよぎる、迷惑がかかると。  
ダンゴナヤワリ……ダンゴ苗は植えにくい、株元よく洗って。  
タンビンムリャ……いつも無理強いして、度々の願いに。  
タンジョモチュ……誕生日の祝い餅、お祝に貰う餅。  
タンコロガデル……痰がつまって窮状、喉の病気に苦勞する。

ダンドトビ……ゴムを利用した子どもの遊び、子供の無心な。  
ダンドリュセニャ……準備をしないと、準備が仕事の半分。  
ダندان……感謝の気持ちの、ありがとうの表現、次々に。  
ダダンユウナル……時間とともによくなって、時間経過で。  
タンネチ……尋ねて見ると、訪問して行くと、解った刹那。  
ダンゴバチ……毒をもつ蜂の一種、用心しないと大事になる。  
ダラシガネエ……失態な容姿が、醜い姿になってみえる。  
タラン……足りないのでは、たらずに困った、物不足が。  
タランカ……足りないのですか、少し不足気味な感覚で。  
タラニャ……足りないのなら、物不足では、不満も残るが。

ダラットシチ……だらしない風体、見かけが悪くて。  
ダラシネエ……貧祖な格好で、心ますしい見かけの姿。  
ダラシユウジ……疲れ果てた体調のよう、休養の必要あり。  
ダラダラ……不順な、無表情な醜態に、生氣のない見かけ姿。  
ダラケチョル……見かけからして醜態な、正気の沙汰なの。  
ダラント……いかに疲れ果てた姿、きちんとしなさいよ。  
ダリュウデン……誰にでも話かけて、なりふり構わぬ醜態。  
ダリデン……誰にでも遠慮なく、心安い性格な人、根は正直。  
タリメート……足らなくても構わぬ、余っても足らなくても。



た ダリガデチ……疲れがでたので、疲労がたまって、休憩して。  
ダリンカワリ…誰にでも言い寄る、誰でもよいので、誰でも。  
ダリーデン…誰にでも話しがあう、人選びしない、いつでも。  
ダリゴタル………疲れたような感触、疲労が溜まったようで。  
ダリモンジャキ………疲れてしまったので、少し休めば回復。  
ダリモデリヤ…疲れも出るほど頑張る、ほどほどにしないと。  
ダリヌカシユ………一休みして、ゆっくり入湯にでも。  
ダルダグ下……肥桶を、下肥出しをするので、肥桶の準備を。  
タルンカ………たりますか、不足はないでしょうか、大丈夫。  
ダルデン………下肥でも、下肥を畑にまいて、下肥の処理を。

ダルカロ……疲労か、つかれたのでは、疲れたのなら休んで。  
ダルチット………下肥を少し入れて、下肥の有効利用を。  
タルーダ………弱々しくなっている、気合いが抜けたような。  
タルカヤー………たりますかな、足らなければ、十分に準備を。  
ダルカタギユ……下肥を運び出して、下肥も大切な知力資源。  
タルゴタルド………足るようですから、足りているので。  
ダルカユ………下肥の汲み出しを、下肥を運び出して。  
ダルウチユ………下肥を田んぼにまいて、下肥で追肥にする。  
ダルカンシレン………疲れるかもしれないので、疲労注意を。  
タルコタネーガ………足るのならよいが、足りないと困る。

タレチヨル………垂れ下がっている、たれて貧弱な格好で。  
ダレニデン……だれにでもある、無くて七癖、欠点は皆ある。  
ダレンカレン……誰でもあるのが欠点、人並みと思って反省。  
ダレカレデン………誰にでも、人選びしないので、万人向き。  
ダレカナツチ…だれか交替して、交替してほしい、役員交替。  
ダリンカリン…誰にでも言いまくる、迷惑かける世間知らず。  
タレタンカ…たれたのですか、たれたのでは困る、近所迷惑。  
タレチ………たれてしまったのなら早めに用心、処置は早く。  
タレクウジ………たれ込んだのなら処置を、早く処置しないと。

た タレナゲーチョル……垂れながしても、気がつかぬのかも。  
ダレデン……誰でもよかったのか、人の別け隔てはなくて。  
ダレナリャコス……あなたならばこそ、格別な気持ちでの。  
タレサガス…垂れているのが解らない、神経が弱ったような。  
ダレデンカレデン……誰かれ構わないで、頓着がなくなった。  
ダレデンユウジ……誰でもよかったのだろう、感覚が薄れた。  
ダロモンナラ……そのようなら、そうであったとしても。  
ダロウカ……でしょうか不自然な、納得がいかないような。  
ダロケンド…そうでしょうか、そうであってもおかしい。  
ダローワ……そうなのでしょうか、すこし変にも思いますが。

ダンナモチ……恋しい相手がいるような、うらやましい人の。  
ダンダンイシ……石段などの、上り階段では、順に上って。  
ダンドリャ……準備はできたのかな、企画が大事な事で。  
ダンダンナ……ありがとうと感謝、段があるので用心を。  
ダンダンニ……順番にあがって、順序よく進んでいる。  
ダンダンヌ……段を丁寧に上ると、石段は気をつけて。  
ダンダンカ……だんだんに進んで上る、足に気をつけて。  
ダンダント……だんだんがあるので、上り坂だから用心を。  
ダンダント……だんだんがありますよ、順によくなって安心。  
ダンダンノ……だんを上れたら心配ない、その先には宝物。

ダンダンモこ……段段もうまく上って、足もとに気をつけて。  
ダンダンヤ…段々ですから足もとに気をつけて、無理せずに。  
ダンダンヨ…だんがあるので、段に気をつけてね、大丈夫よ。  
ダンダンワ…段々はおわったから、一安心して、つぎも元気。

同じダンがついても続く言葉で 意味が変わらちくるけど  
そこに方言があると 少し柔らかくなるので 人の心も落ち着  
くきー不思議。そげな生活文化を大事に しながら使うたきか  
今も これかると使われるん じゃろうなえ野津原方言ぬ。





◇◇◇ 方言単語の分割説明も 『あ』からはじまっち ここ  
まじじ20014語に なったんで。勿論一つん単語  
じいくつもん 意味もあるきなえ。コン前ん頁にでんあったごつ  
ダンダンにつく字じ 意味がすぐ変わるき 方言たゝ面白いもん  
。それがまたナンカ温かな 素朴な人情が隠されちよる。

ち チャーラ……あらまゝほんと、呆れたかびっくりしたのか。  
チャント……しっかりとして、確実にしないと、きちんと。  
チャリヤマ……あらまゝどうしましょ、いいような悪いような。  
チイテン……ついていても、ついていけるけれど、くつついても。  
チイチ……ついていける事も、到着したらしい、ついて離れない。  
チイチヨル……ついていけるので、ついていけるから心配ない。  
チイチヨリヤ……ついていけるのなら、到着したようで。  
チイチクル……ついてくるようで、ついてくるのならお利口に。  
チイチヨケ……ついていないと、迷子にならぬように。  
チイチク……付いてくるから、つきそっていけば、密着して。

チイセイキ……小さいので、細かいようです、小粒なので。  
チイソ……小さくて、細くしたもので、細かいもので。  
チイット……すこしでもよい、少し動かして、余分があれば。  
チイメーノ……小さいようだから、小粒でも、小さくても。  
チイチヨキヤ……付いていけるのなら、付いたようだから。  
チイタカ……付いたのだろうか、付いたなら安心。  
チイ……袋に付けた落としの用心物、袋に環通しの分。  
チウカン……ひょうげ者、滑稽な性格の人、賑やかな人。  
チウテンカラ……滑稽な動作話題の人、賑やか好きな人。  
チウレン……滑稽で笑わせ上手、場所を盛り上げる人材。

チエネタ……知恵が出たような熱、急に発熱する性格。  
チエシボリユ……知恵を絞ったように発熱、突然の発熱。  
チエドマ……知恵をだしたら、アイデアが上手なのに。

ち チエンワ……細工してある知恵比べ環、慌てると苦勞する。  
チエブクリ……知恵がつまった頭、頭の回転がいい人。  
チエジャノー……うまい解決に脱帽、頭のいい人には叶わぬ。  
チエタ……壊れた、つぶれた、壊れてしまった、失敗した。  
チエモン……頭のいい人間同志の喧嘩、才覚のある頭脳。  
チエタト……壊れてしまった、つぶれてしまう。役立たずに。  
チオツキ……幟旗の紐止め、血をつけて検査、袋の下げ道具。  
チオミリヤ……幟旗の下げ止め道具の検査、袋の下げ道具。  
チオミンナ……血は見ないがよい、血を見ると心配になる。  
チオガミュ……折り紙細工が、きれいな折り紙細工を。

チオミスナ……血は見せないが有利、血はあまり法外に。  
チオツケチ……血が散らばって被害が、出血は大丈夫なの。  
チカロ……力をはっきしたいので、力自慢も若いときだから。  
チカメ……近くはよく見えても、目の不自由が顕著になって。  
チカベ……近くの便利のよい、近くなら安心できる。  
チカチカ……最近、刺激が強すぎて、極端に光がまぶしくて。  
チカキ……投げかけなさい、なげかけて仕返しを。  
チカラマカシ……力いっぱい、力任せの、力み過ぎて。  
チカットサス……急に刺されて、刺された場所はすぐ手当て。  
チガヤセンカ……違わないですか、ちがわなければよいが。

チカロカセ……支援お願い、力を貸して、便りにているので。  
チカタリヤ……投げかければ、急に投げかけて。  
チカマニヤ……近い場所には、ちかいから便利でも。  
チカパニヤ……近い場所の利用が有利、利用するのも好誼。  
チカヨリヤ……近寄ってみると、近くだからよるのも。  
チカメチ……近くして利用する、近くすれば役立つもの。  
チガワンゴツ……違わないように、ちがうと恥をかくから。  
チガウンカ……違ったのですか、失敗してもすぐ改善を。  
チカラアリヤコス……力がある場合はお互いに、相互扶助も。





聖賢



◇◇◇ 故郷ん味 ◇◇◇ 昔しゃバツカリ食いち ゆう言い  
よったがそりゃー たしかに片寄  
る難点もあった。じゃが季節に合うた 時期物う食ぶるんな 何  
ちゅうてん 一番理想的 食べ物上手ち言える。そりゃー季節  
に田畑かる栄養分ぬ 充分吸いあち成長したき 栄養満点でんあ  
った。むげねえが 嫁入り姿はいいもんで。

それもそん季節にほしい 食べ物じゃき尚更いいこち なるん  
じおなかろうか。ビタミンやら ミネラルち言うもんが 豊富に  
入った食べ物じゃき 腹ひとつ食べることじ サカシュもなっち  
馬力も出る。『せせろしいけんとなえ』 誰な妙なこつ一言うな  
あ。聞かんふりこす情け心 誰しも思いは一緒じゃねえ。

年寄りらしい絞め言葉じ 笑顔ん拍手になった。夏はどげゆう  
てん 外仕事じゃ体が ほてるもんじゃき 水うガブカブ飲む。  
それも汗うかくき いいんじゃねえ 汗が出る事じ老廃物も 外  
に運びで一ちくるる。じゃが水分補給は しな一えじゃねえと  
日射病になったり 熱中症になるち言うで。

キュウリ トマト何かは 体を冷やしちくるるき 料理にゃ欠  
かせん材料の一つ。庭先ん菜園かるモギ取っち サクサク刻むと  
塩もみすりゃもう 逸品が出来上がる。酢の物にどますりゃもう  
格好ん副食になっち お点前がいいなあち 褒めらるると 里  
はどこかなあち 次ん話が賑やこなる。

カンランの酢のもん 青シソも入る ミヨウガが入れて……ち  
オラビヨル。肉食もいいが 脂肪分の取りすぎゃ 科学調味料ど  
ま使うと ちっと甘口なっち ついつい塩ひとつまみ。それが塩  
分取りすぎにもなる。『そげー辛うねえで』 じゃろうおおもと  
が ちっと甘うなったき 塩がチット走り込むわけ。ちっとがナ  
エ朝晩になると チットチットにもなるき。



今日はカンランの味噌合え あしたもそうで。いいんじゃないねえ  
こんだ秋口にゃ そげなんな姿消すこと。じゃき転げ回りゃいい  
んじゃないねえ 運動にもなっち 聞いちつた五助さんが こん前に  
竹田でん聞いたで。農家じゃもう 『口癖』になっちよるき そ  
げ珍しゅもねえし タマガリもせん。

元々日本人な米を主食にするき 味噌汁にイリコダシ 時にゃ  
魚が膳につくと喜ぶ。でん味噌汁かる取る カルショウムでん  
趣かる取る栄養分でん 詳しゅう見りゃ肉魚に 比べてんあんま  
り 変わらんのじゃなからうか。じゃこと昔ん人たちゃ 何千年  
も今よりマツ悪い 食い物じ生きて来たんで。

『旬の食材は栄養が豊富』ち 専門家は言うごつ 今の食べ物  
う大事にする事じ 日本人な健康が保たれるち 思われる。旨い  
と食べすぎち 脂肪分の取りすぎ 肥満になつたり 食い物んバ  
ランスも 片寄る不公平になる。衣食住に恵まれ過ぎ そん弾み  
が外かるん刺激によっち 偏食になると 折角ん健康体も 壊れ  
る危険性もありゃせんじゃらうか。

『小屋ナンカねーかな』『ジリ火焼き食ぶりゃ』 ばあさんが  
気を利かせち 立ち上がった。『わりーなゝ 忙しいじゃねえ』  
『今 作ろうかち思いよった』『そうな』 そげ言うたもん  
本当じゃねえな わかちよる。働いた人にゃ 腹ごなしせんご  
つち 思う優しい気くばりに 横向いて目頭う 押さえた。

あり合わせん材料じつくる それもすぐ間に合う心くばり そ  
こにゃ贅沢な食い物じ のうでん心んこもった 粗末な物でん  
栄養にも活力にもなっち 『よし頑張ろうか』に 結びつくもん  
でんある。『焼けたで』『ありゃーもうえ』 湯気が立つ焼きた  
ちん ジリビヤキ ソンアジア もう何のものにも勝る ご馳走じ  
ゃらう。身につき血になる 栄養価ん高い。



## 『ダンゴ汁が1等に入選』

故郷ん郷土食でんある『ダンゴ汁』が 大分保健所管内ん『栄養料理コンクール』じ 専門家ん見事な出品を 抜いち見事1等賞に 推薦されち県知事賞獲得。

昭和30年(1955)の 事じゃつたが 日ごろかる農家が常食んごつ する代用食でんあるが 百姓が夕飯たゝてエゲ これが顔うで一ちそれがもう 当たり前にもなちよつた。じゃき子どもん頃かるもう 特に娘なんか好きになち そりゃもう母親顔負けん いい技術を身につけよつた。

それに食感がいいことやら 材料がより好みせんじ 何でも愛想ゆう合うもんじゃき 季節に關係のう炊かれ 食べられよつた。暇ん時に小麦粉をこめるが 適量ん塩と水じこねち 耳たぶほずん柔かさにしたら 手のひらじ一握りほじ取り 細長にまとめち ふきに並べちチョイト寝かする。

天気や好みじ量はお任せ あんまり考えんでん 失敗は失敗なりでん うまく行くもんじゃき 専門的にゃ考えんでんいい。

参加した『みどり会』は 若い娘さんが中心に 若嫁さんも入ちよつたが 22人が毎月1回 保健所ん講師かる指導受け こんコンクールに出品となった。熱心に指導を受けた成果が 出たもんじ改めち郷土料理ん 『ダンゴ汁』も見直されたが 大元昔かるん米食い延ばしん 努力家でんあつち思う。

戦後に町じ流行した 『スイトン』もこれん 親戚見たいなもんじゃが チット高度な技術がいる ダンゴ汁にゃ 寝せたぬ起こしち 手に優しく取ち伸ばす そんなテクニックは やつば難しいとん言う。じゃが愛情がありゃもう 簡単ち思うが。

煮え立ったイリコダシん 入った鍋に手にとった ダンゴを  
伸ばしちいるるが ここじゃ伸ばしたんぬ 中を裂いて入ると  
ポチャンと湯しぶきが あんまり飛び散らん。こりゃ豊後独特  
う炊き方。ちよいとマネは 難しいが炊き上がった そんな食感な  
硬軟がうまく バランスを醸しで一ち 乙な味になるち言う。

みどり会んしたちも 農村の人たちの体位向上と 長寿の面に  
役立ちて一ち 真剣なまなざしじゃった。これからも一層勉強し  
ち また機会がありゃ次を 狙いたいそうな 健気なことじゃな  
あ きっと次あ〇〇〇賞確實じゃろう。イリコダシ 小麦粉 そ  
れに味噌がはいると 消化もゆうじ栄養満点。つけ具は何でん  
あるもんなら 特に季節ん食材は 一番おいしい季節とん言う。

ダンゴ汁に似通うた 簡単な『落としだんご』も 忙しい時ん  
助け船になる。朝ん味噌汁ん残りに 小麦粉を緩く練って 貝シ  
ャクシじ 掬い取るごつ 適当な量を取っち 煮え立った汁に入  
るると すぐ出来上がり。ダンゴン感触もいいもんじ 一食ん献  
立てがすぐ出来る。

季節ん野菜ん利用は 一番おいしい野菜ん味を 楽しめるしそ  
ん味が 回りんものまじ 美味しく造り揚げちくるる。季節を生  
かす事が少なくなり 季節感も薄らいだけんど 真の美味しさは  
やっぱ そんな野菜ん旬にあるごたる。季節はずれは便利もいいし  
時の間に目移りするが 旬の味利用も上手な 料理方法かん  
知れんごたるなえ。

土が味を持ち出すとか つちが旨さを作り出すとか 言い方も  
あるち聞くがそれも 頷けるようじ 粘土土ん米は旨いちゆう。  
けんど花咲き実った そんな作物ん努力した 底力にも感謝しち  
頂く時そこにかそれなりん 独特な味も隠されらよるごたる。味  
は自分の舌、五感、心情にもよるけんとなえ。



炊きだちん舌ん感触 炊いた人ん心が伝わるごたる。ダンゴ汁  
ち言うけんど ダンゴじやねえ 食い物 故郷ん人情が こねこま  
れた郷土料理じゃろう。炊きだちん味ゆうじ 冷とうでん又ちが  
う味がする。温めち食ぶるとコイタ 又旨い味に早変わりする。

そん炊く時ヒョイト残る 茹ずると『ヤセウマ』になる。小竹  
に巻いち焼くとこんだ ヒヤキになる。

米タボイ…米ん食い延ばしじゃつた。米は売ることじ生活費用  
になる。じゃきチットデン売ること となりャソゲーワ残らん。  
どしてん代わりがイルモンジャキ 小麦、麦う植えちそりゅ助け  
ち来た。子どもなりに身にシミチータ いのちき上手になったん  
じゃろうな。

『ヤセウマ』さっきん 伸ばしたんを こんだチット平とっし  
ち 茹ずると出来上がりになる。ここじ違うんがそんまま あげ  
ちザルに広げち 水分ぬ飛ばす。そり一きな粉つけたら はい  
一丁あがりになる。仏になった家族が貰い物を 請いながら貰う  
ため 持ち帰る時に縛るにゃ こんヤセウマが丈夫ち言う。じゃ  
き時々 にゃ 仏様に ヤセウマ 供えち使うように。助かるらしい。

盆に供えたりするんも 気持ちが込められちよる。きな粉がネ  
エ時ゃ 醤油タラリ それでん食わるる。ゆう考えた生活ん知恵じ  
ゃろうな。『なしヤセウマち言うか』 そりにゃこげな話がある  
馬子が頭張っちハリクウダキ 馬は真剣ダッチシモウタ。店先  
まじえーと辿りちーたら 長い舌がこれ以上は伸ばんごつ タラ  
リ……丁度ヤセウマ食いよった客が 『りゃーあん馬ん舌は  
これとソックリじゃ』 『ふんとヤセウマんごたるなぁ』

馬がムゲネエケンド ヤセウマもひょいとすりゃ 嬉しいんじ  
ゃなかるうか。殿様がそれ聞いて『いい思いやりじゃわい』と  
感心したそうな。



方言説明 37P バッカリ食い…片寄った食べ方。じゃが…ですが。ちゅうてん…そう<sup>中</sup>してん。むげねえが…可愛いそうで。いいこち…よいことに。サカシユウモ…元気で。せせろしいけんど…うるさいけれど。どげゆうてん…どんなに言うても。ほてるもんじゃき…上気するもので。しな<sup>お</sup>えーじゃねえと…しなさいよだけでなく。くれるき…くれるので。どま…などに。カンラン…きゃべつ。オラビヨル…叫んでいる。

38P じゃき…ですから。なच्चよるき…なっているの。  
タマガリモ…吃驚もしない。じゃこと…ですこと。ナシカ…なでか。じり火焼き…柔らかい状態で焼く。そうな…そうですか。のうでん…なくても。

39P テエゲ…大概に。じゃき…ですから。食いのぼし…食料の節約方法。

40P ちょいと…少し。

41P だちん…時の。でん…でも。コイタ…これは。ヒヨイト…もしかして。タポイ…節約に。ソゲーワ…そんなには。イルモンジャキ…必要ですから。物乞い…門に立ち読経してお接待を受ける。そりー…ひれに。ハリクンダキ…精出したので。ダッチシモウタ…疲れてしまった。

お盆に仏様に炊いて供えるものにゃ ダンゴ、やせうま、うどん などがあつけれど きな粉のついた『ヤセウマ』は 乾くと丈夫になって強く 重たい荷物を下げても 切れないとの意味で 盆帰りのみやげが 途中で落ちないように 束ねるククルのにつかうのだそうです。



# 玉手箱



昭和29年《63年前の頃》東部小学校で 野津原村主催の『俵の表装競技会』が あっちそりゃまゝ応援も 多かったごたる。なんさま始めてん事じ 真剣に練習した12人が よーいドンの合図じはじまった。俵にゃ表外側 内俵 漏らんごつ 蓋ん役割ん サンドウラ しめ縄 ホズミ縄 なんかがあっち そん すべてが審査ん対象じゃつた。

審査員も大分食糧事務所ん 所長が審査長になっち 完成したぬ厳正に審査した結果は そん日の晩方にゃ決まった。それまじ待つ事おおよそ 5時間じゃつたき もう出た選手もじゃが 心じ応援しながら 成り行きう見護りながら 待った時間の長えこと。ダッチシモウたち 顎で一たごたる。

なんさま今まじこげなコター なかったもんじやき カッテモ違ふ事もあつたごたるがとにかく出来上がった 俵そんもんが いかにも美しく 見かけゆうじ 丈夫じ使い勝手がいい 品のよさなんかも 審査ん対象に入ったごたる。それだけにそん手先 足先《こりゃアンマリ関係ねえが》 びりびりしよつた そうな。

そしち終了した後は 審査員が厳格に見ち 結果が発表された。編み下ろしとそん寸法 なんかいろいろな寸法も 計っち一つ一つチェック、まゝ選手だけあっち 見事な俵が 並んじ輝くごたつたよう。丹精込めた俵は やっぱ誰が見てん 見栄えがするもんじゃき 息う飲むごたる会場じゃつた。

審査の結果は 審査長かる厳かに 発表された。講評に続く そん一言一句は 選手に対する ご苦勞の印でんあつた。こん会の 一等賞は 中村泉に決定した。二等賞は 安達一男、と福岡保。三等は 柳井幸男、板山ヨシ子、河野 視に決定した。ご苦勞さまじゃつたち 拍手がいつまでん 続いたそうな。

## 『昭和の大合併の波が広がる』

昭和25年に臼杵市が発足 26年にゃ津久見市もスタートしち それじ のうでん全国的な合併ん波に 大分県も遅れるなち 旗ふりもおっち俄かに 話題が広まった。26年にゃ民間放送も開局。大野川発電も試験通電開始、全国に公衆電話《交換手受付で》も広まった。

昭和29年に竹田市が発足すると 各地ん町村合併にも火が チイタゴツ話題が広まっち 野津原も議会が慎重に審議 七瀬川添いん4つん村が『気候風土 生活環境』なんか 似通い流れに従う心ん絆が 理想的じゃなかろうか。ち識者ん間かるも聞かれよった。七瀬川ん源ん今市村 野津原村 植田村 東植田村 こん流れに添うた 合併ならば事前体んごたる それこそ夢とロマンが かなうごたる話になりそうじゃつた。

じゃがそげな楽しい夢が 壊れたんが大分市ん 舞鶴橋が完成したもんじゃき 一遍に変更ん方向に動きで一た。いち東植田と植田が賀来を 誘っち3つん村が合併しち 大分町をスタートした。そりゃあんまりじやねえち 言うたところじドケモナルメー。残った野津原と今市こそ ムゲネコサレん有様。

昭和30年《1955》町村合併は 一挙に進んじ杵築市も発足 大分県の 行政区は慌ただしく様変わりする。そん影じゃ白山村ん合併じゃ『村長リコール』もあつた。が早いがいいのか 遅れたんがいいんか悲喜こもごもん 合併問題はいろんか記憶を いつまでも残すこちなつた。

こん年に合併発足したんが 安心院町、清川村、緒方町、院内町、佐賀関町、朝地町、真玉町、7つがスタートした。大分町構成が

あって 隣接の今市村と野津原村も こん年に合併となつた。





『ああモンテールパの夜は更けて』

第二次大戦の比島でん激戦は 輸送が遠くなっち途中ん 制海制空すべてが敵の手中にあった。戦争末期の形相でんあるごたる。敗戦後ここじ戦犯としち 苦難の年月を過ごした人たち そんなにゃ大分県人も14人。しかも無実かん知れん汚名が 着せられち途中じゃもう 処刑され無念の里帰りとなった。

こんモンテールパに収容されちよつた 代田銀太郎が獄中じ作詞した唄…それに曲をつけたんが伊藤正康じゃつた。慰問活動を続けよつた歌手の 渡辺はま子が巡り会うち 唄ったこん唄にそんな切々と唄う 情感に時ん大統領が感動しち『処刑しても何の特になるのか』…と戦犯の特赦を昭和24年に決断した。

この頃には大分県の14人の内 すでに7人は処刑されちよつたち言う。野津原ん人も厳しい毎日に 耐え忍ぶ時折ん便りに地元ん子ども会は幼心ん 花の種を慰問の手紙に託した。やがて現地で撒いたら発芽しち 可愛い花が咲いたと返信が届いた。遠く離れた留守宅でも 一途の望み託して待つ日の 辛さが続くが特赦によっち巣鴨に移動した。

モンテールパの夜は更けて ツバメはまたも 来たけれど  
つるの思いに やるせない 恋し我が子は いつ帰る  
遠い故郷 し の び つ つ 母の心は ひとすじに  
涙に曇る 月影に 南の空に 飛んでゆく  
優しい母の 夢を見る さだめは悲し 呼子鳥

渡辺はま子、宇都宮清…唄

咲いた花を見て元気を取り戻した時 きっと故郷で咲かせて又見たいと 皆んなで誓いあったと言う。

巢鴨からは日本がそん先ん 責任を持つ形になっち 全員が  
釈放と言う決断になり 無事に故郷ん土を踏むことも出来た。  
昭和28年7月26日 敗戦かる8年はずした 真夏ん暑い盛  
りじゃつたが そん日の暑さは『そよ風』ん ごたる気持ちじ  
ゃつたんかん知れん。

無事に帰国した感激の中じ 作詞した代田銀太郎は 18年  
に。渡辺はま子は 平成4年にそれぞれ 苦難の中をくぐり抜  
けて 大役を果たした思いじゃ なかつたらうか。この唄がこ  
ん人に唄われ またこん人が心動かされた。人は人の心の中に  
生き続けるもんでんある。きっと今も人のために 尽くしたと  
思う 優しい心情によっち 安らかな天国ん 生活でんあろう  
。

辛かった抑留生活 戦犯の汚名に苦しんだ同胞 そして処刑  
された人たち。戦争はいくたの心の傷を 残してそれは元ん  
もう 絶対に取り戻せん悲しい 現実の物語でんあつた。故郷  
に無事帰ったそん人は そんな思いを胸に 町の為に尽くしち  
感謝しつっ 世話になった人の後を追った。

二人の娘は励ましてくれたいた 四つ葉のクローバーさんには  
は 再会出来ないままに成人しち 現在社会で活動生活をしち  
るが それが全てん人えの ご恩返しでありそこに 人間の心  
ん絆による平和えの 道になるのじゃなからうか。人は人ん世  
話になる だから人の世話をする事で 輪廻の世界は回るもん  
。そこに人間の幸せが存在するち 思わるる。

優しい母ん夢を見たり 一筋に母が心よせる たった一度き  
りん人生の申じ 幸せと不幸は紙一重ん 生きる道でんある。  
戦争んねえ世界 喧嘩んねえ社会 そりゃ一人間の心がけ次第  
でんあるんじゃが。欲が邪魔うすることもあるなえ。



◎◎◎ キクと鷺の人柱 ◎◎◎

野津原ん愛宕山上に築城する こちなったけん仕事に 精出す  
ごつ催促されよったがそげえは なかなかウマイコトいかんもん  
じゃき 相談慎重に重ねち 『人柱』を たつるこちなった。そ  
ん人は誰にするかち なったがなかなか決まらんもんじ ある家  
ん娘に言いきかせて決まった。

そん日は真っ白装束に身を包み 袴も真っ白ん娘は 伏目なが  
ら覚悟はできちよつたよう。鷺と一緒に人柱になったことかる  
『鷺ヶ城』ち呼ぶごつなつた。じゃがなしか それ以来夜になる  
と 家鳴りがするもんじゃき そん原因ぬ祈とうしちもろうた。  
それによりゃ 人柱になった『キク』と言う 女性ん供養が足り  
ぬと お告げがあつたよう。

城主は早速そん供養をしち そん供養塔も地蔵谷ん 脇に建て  
ち懇ろに納経したら やつとそれも治まった。今も残る与志屋施  
主による 供養塔がありし日の 悲しい人柱としての 思いを今  
も残されちよるよう。そつと残したそこには 当時の悲しい事は  
夢のごと 忘れられようとしちよる。

文献によると 一の瀬川原天神宮前より 東に深い沼田があつ  
ち 山地ん間の道路に峰伝え 3門を建て本丸まじ 一筋ん道路  
としち 生鷺、生女キクを 生きにえに築城。地蔵谷を挟む男竜  
池 女竜池ありて 生垣を造り大神池としたが 夜ごとに操気し  
宗拍流法師に申しつけ 振動鎮元せり。当時の国司緒方三郎に  
引き継ぎ 守護職大友左近将監能直に譲り 武将頼朝の直系付属  
として 忠勇を尽くすべきことと 執連あり。

ひっそりと眠る供養塔には 時折香が手向けられているが お  
そらく近隣の人たちの 優しい思いがこめられた 証であろう。

愛宕城《鷺が城》に 関わる話もあるき 次に並べちみました。  
応安年間《1368年代》今かる 650年はず前になるが  
南朝方じそん名も知られた 肥後ん菊池武光、武政が 九州全土  
う攻略しち京に上る 野望があっちそんたみ 豊後ん大友が邪魔  
じゃった。

菊池軍な久住に本陣ぬ構え 大友配下んあちこちん 城を席卷  
しちよつた。大友配下ん鷺が城も 手中に入りようどち 久住か  
る軍勢をひきいち 大手門の入口あたる 一の瀬川原一帯を掃討  
しち 天満宮を本陣に付近に 陣を張っち戦機を 伺いよつた。  
権現鶴にゃ鷺が城ん 御地栄之助をはじめ 多くん臣下ん寺屋敷  
じ 侍は城中じ城を護っち 屋敷ん方じゃ家族が 留守う護っち  
よつた。

菊池軍は留守ん家族 子どもも 福城寺 普門寺ん坊さんまじ  
殆ど殺しちしもうたち言う。ムゴタラシイコツ スルモンジャ。  
ところがじゃ 5月15日かる雨が 降りはじめちいつまでん  
止まんじ どんどん大雨になった。20日ん昼頃まじ ブツツケ  
に降るもんじゃき 大雨になっち一の瀬川原は どんどん増水し  
ち 今まじ見たこともねえごつ 大洪水になっち 殆どん家が土  
台まじ跡形もねーごつ 流れ溺れ死んだしも 多かっただたる。

水は鷺が城ん大手門まじ 増えちきち待機しちよつた 菊池軍  
もデー分溺死したしもあり 菊池軍なドケモナランジ 宇曾原う  
たっち大峠越しに 久住ん本陣に引き上げたそうな。鷺が城かる  
そんこつう 大友親世に報告したら とてん喜くうだそうな。こ  
ん戦じ菊池軍に殺されたり 溺れたりしち死んだ人たちん 追善  
供養ん為に頭を丸めち 出家した御館地栄之助光任は 名を御館  
入道衣円ち言うち 流された僧侶円師ん館内に 一字廟庵を建て  
ち 冥福を祈ったそうな。こげなムゴタラシイ 戦が昔もあっち  
そんたんび 庶民ないつも犠牲なりよつたごたる。





- 4 3 P サンドウラ…俵の外と内の間から 米がこぼれ出らないように 内の口を閉じた後 その上に乗せて外の俵で閉じることで米がこぼれ出ない。ホズミ…俵をまず中を絞めて その左右に2本の縄で絞め その5本の絞めた縄を さらに縦に十文字に 潜らせては上に出して 絞め上で結び止める縄。じゃつた…でした。ダッチシモウチ…疲れてしまって。やっぱ…やはり。
- 4 4 P それじ…それで。のうでん…なくても。民間放送…当時の大分放送OBS=ラジオ放送。チータゴタル…ついたようで。じゃが…ですが。そげな…そんな。そりゃまゝ…それはそれはまゝ。あんまりじゃねえ…あまりではありませんか。ドゲモナランジ…どうにもならなくて。
- 4 5 P そん…その。じゃつた…でした。
- 4 6 P ぼずした…ほどでした。四つ葉んクローバーさん…仮名の影から励ましていた人で 村報にもお礼の呼びかけがあったが 目の前で通りすぎても 明かさなかつたので 幻だったが 父親が無事に帰国したので きっと心で感謝することで両方とも よかつたのでは。
- 4 7 P そげえは…そんなには。ウマイコト…調子よくて。人柱…昔は難工事などに 生身の人を埋めて願いを立てたと言う 哀れな物語秘話だが 納得させられた人はそれが世のため人の為ならと きっと成仏したのでは。勿論後の供養はそれにも増す 必要があったのは言うまでもない 残された関係者の務めでもある。じゃがなしか…ですがなか。家鳴り…想像以上の心理的負担になったよう。

48P そんたみ…そのために。ムゴタラシイコツ…可愛いそう  
で聞くにも聞けないような 気の毒な物語。スルモンジ  
ャ…したものです。ブツケに…急に打ちつけて。ドゲ  
モナランジ…どうにもならなくて。そんたんび…その度  
に。

---

### 皆んなで歩いた 野津原町の 史跡探訪

昭和59年(1984)今かる30年以上も前ん話 町民に歩い  
ち野津原ん史跡を 知ってもらおうと 町内を3つんコースにわけ  
ち くわしいガイドをつけち 歩いた11月6日。★ 1コースは  
町中央公民館かる 権現⇒黒山遺跡⇒のびゆく丘あたりまじん 約  
4.2キロに300人が参加。★ 2コースは 大田公民館を出発  
しち諏訪神社⇒大田五輪塔群⇒地福寺五輪塔⇒本福宗五輪塔⇒竹の  
内までん 約7.1キロ。★ 3コースは今市丸山神社⇒石だたみ  
⇒石合原遺跡などん 約6キロ。

高年者事業ん一環としち 実施したもんじやが 史跡巡りん体力  
づくりと 子どもたちや老人とん ふれあいも兼ねそなえた こん  
企画は初めてん事だけに 大変人気もよび次回は 別のコースをと  
早くも 胸躍らせよった。1600年代に大友旧臣が 出陣前に建  
てたと言う 逆修墓なんかは 通っても気がつかんじ 知らないし  
も多い史跡に吃驚。三国峠の景観と地名の謂れ、天領ん面影残す  
場所の由緒や かつての参勤交代道ん 夢やロマンも伺い知れた。

現在地区ごとん歴史探訪も 知っている人材を生かした 継承事  
業としちのこす必要性も あるんじやなかろうか。そこにゃ先人の  
苦勞した過去ん思いが 無言ながら伝わるごたる 思いに馳せるん  
も不思議な思いち。世話した安田ん顔にゃ満足な笑みも。



古. 明. 新. 歌





§ § § 古い唄、新しい歌 § § § 野津原にゃ昔かる音楽に  
趣味を 持つ心情が多う  
あっち盆踊りでん 手持ちん『口説き』じ 間に合いよったごた  
る 音感にも秀でたしも 多かったごたる。神楽囃子でん戦国ん  
頃かる 聞かれたんもそげな 音感的な底流があったんじゃろう  
。

三輪ノブが婦人団体なんかに 唄おうえ踊ろうえち 特技発表  
ん機会を作った元 教師じゃつたき専門的な 学識もあつたごた  
る。『野津原音頭』なんか ゆう歌い踊った艶姿が 今でん目に  
浮かんじくる。大百姓じゃつた 橋本小次郎もゆう作る、のちに  
野津原が真剣好きち 移転まじしち来た 首藤チエもそん一人。  
そげなん曲と交差するごつ 続く若いしたちん唄をいくつが 揃  
えちみました。

七瀬小唄 宇曾の峰から 七瀬を見ればヨ  
可愛いあの娘の スゴキのような  
解けて流れて 明日はホンニ  
明日はいづこで 咲くのやら  
トントントンカラリと 咲くのやら

瀬音恋しや 七瀬を見ればヨ  
愛しお方の 呼んでるような  
石に砕けて 寄ってホンニ  
寄ってしっかり 抱くように  
トントントンカラリと 抱くように

秋の七草 七瀬を見ればヨ  
いつか二人の 微笑むような  
甘い夜風も 星もホンニ  
星も輝く 天の川  
トントントンカラリと 天の川

七瀬みれん川 忘れたはずの 面影が  
神楽ばやしに さそわれて  
七瀬の里の 鈴が滝  
二人の愛を 笛の音に  
流せば悲しい みれん川

桜の里を 染める頃 御神燈あかく 灯る夜は  
きっと帰ると いいながら どこか似ている 横顔が  
七瀬の辻に 抱き寄せた 思い出される 恋螢  
信じたあなたは もう5年 みれん心 またつのも  
夢に見ました みれん川 しあわせください みれん川

夜神楽を見ての帰り道 ほてった肌に滝しぶき受けて そつ  
と抱きしめられた そんな貴方の匂いが いつまでも心乱し  
寝つけぬ夜が 更けてゆくもの悲しさ。

故郷に帰ると 強く言って旅立つ姿 今も走馬灯のように  
浮き彫りされるのに 手がとどかない やるせなさ なんて私  
だけが……

### 七瀬音頭

さとは宇曾から みどりの野から  
明けりゃ川面に 鮎が飛ぶ ソレ  
揃うた揃うたよ 心も一つ  
野津原よいとこ 七瀬の里の  
いきいきいい町 ソレ 人づくり

あの娘年頃 朝露ぬれて  
牛を育てる いしらしさ ソレ  
揃うた揃うたよ 今市原に  
野津原よいとこ 七瀬の里は  
水とみどりと ソレ 安らぎと





昔しゃ馬子唄 肥後街道の  
上り下りの 石たたみ ソレ  
揃うた揃うたよ 行列過ぎりゃ  
野津原よいとこ 七瀬の里の  
夢と人情の ソレ 花も咲く

北の野野台 南の四辻  
諏訪の石仏 夢さめて ソレ  
揃うた揃うたよ しあわせづくり  
野津原よいとこ 七瀬の里は  
老いも若きも ソレ 生きがいを

ニラだワケギだ 椎茸 久保茶  
柿にイチゴに 七瀬味噌 ソレ  
揃うた揃うたよ 真心こめて  
野津原よいとこ 七瀬の里の  
土の香りに ソレ ひとめぼれ

今年しゃ豊年 祭りの笛が  
みのりうれしや 十五夜の  
揃うた揃うたよ ヤグラの上で  
野津原よいとこ 七瀬の里は  
森といずみが ソレ 日本一

町政33年 ななせの里ふるさとまつりを祝って  
出来た故郷の唄保存会よりのプレ。

△△△△△ 野津原賛歌 △△△△△

春は蜜柑の花咲く丘に	夏のお祭り 清正公様の
夏は名瀬の川涼み	こし担ぎの 凜々しさよ
夜霧朝霧 夢の国	烏帽子狩衣 わらじ履き
蛍が踊れば 河鹿が唄う	馬乗り袴の 両ひざからげ
水の野津原 山の町	浮かれ太鼓で 西東

秋はにぎわう ふるさとまつり  
四方の山々 もみじして  
唄に踊りに 露天市  
買およ買わんか 地元の野菜  
二度とないよな 品ばかり

●●◎◇□△ 七瀬馬子唄音頭 △□◇◎●●

ハアー 里の七瀬で 里の七瀬で 馬子唄聞けば  
古き人の世 偲ばるる  
エ 偲ばるる 偲ばるる

ハアー 旅の恋唄 旅の恋唄 さまざまあれど  
なでか魅かれる 馬子唄に  
エ 馬子唄に 馬子唄に

ハアー 村の娘が 村の娘が 三人寄れば  
馬子唄話に 花が咲く  
エ 花が咲く 花が咲く

ハアー 霧の坂道 霧の坂道 乗り合いバスが  
馬子唄乗せて 今日も行く  
エ 今日も行く 今日も行く

ハアー 川の流るに 川の流るに まかせて唄ゃ  
二の瀬三の瀬 府内まで  
エ 府内まで 府内まで



環境の素晴らしい野津原に 真剣惚れこんで移転した 作者の  
目を耳を心を通じて 写し出された 描写を詩に創り揚げて  
国東の作曲者が曲付けした 七瀬の星の故郷の唄物語。

宇曾の嶺の麓には サノ 麓には  
温泉湧き出す 恵みあり ト サイサイ 恵みあり  
貴方と私を 結ぶ丘 サノ 結ぶ丘  
しあわせの丘の 和泉荘 トサイサイ 和泉荘

あの人この人 集い来て サノ 集い来て  
湯けむり越しに 花が咲く ト サイサイ 花が咲く  
昭和の町から 平成は サノ 平成は  
野津原町から 大分市 ト サイサイ 大分市

過ぎた昔を 語り合う サノ 語り合う  
時の流れに 涙する ト サイサイ 涙する  
七瀬川も 山里も サノ 山里も  
このまま子孫に 橋渡し ト サイサイ 橋渡し

今日も一日 面白く サノ 面白く  
明るい笑顔に 福が来る ト サイサイ 福が来る  
幸せの丘の 和泉荘 サノ 和泉荘  
明日も元気で会いましょう ト サイサイ 会いましょう

利用者の心情が和やかな 環境ムードノ中に 伺いしれる想いの 感謝の気持ちが 心も豊かにしてくれます。

幻想 肥後の殿様 お通りじゃ そんな声した遠い日の  
証拠となるか 野津原の 古き町並み 茶屋の門  
皆平伏して 見たじゃろう

お駕籠を降りて しづしづと 向かうご門の 石段は  
優雅な姿が 偲ばるる 浦を流れる七瀬川  
手すりにもたれて 見たじゃろうか

★★ 竹刀踊り ★★

平成元はじめに大分県の 民謡研究家加藤正人が 県内一円  
じ民謡ん発掘がされよった。たまたま趣味じしよったぬ どこか  
るか聞きつけたんが 巡り合わせん発端になった。好きもあっち  
手弁当じ加勢しち 時にゃダンスケ担ぎ 山坂うはいずり回る。  
そげん巡り合わせが 思わん効果になったんが 何か故郷ん民謡  
を残して一ち 若えくし欲張ったんが『七瀬馬子唄』

そげな縁もあっち中部小学校生徒に 運動会ん集団演技にと  
指導したんが『竹刀踊り』じゃった。歌詞は昔物語じ馴染まんき  
馬子唄かる 引用した口説きを挿入しち 生徒ん可愛い高音が  
凜々しく響く。講堂にゃもう熱気がこもっち ばあさんたち協力  
しちくれち 仕上がりも上々じゃった。

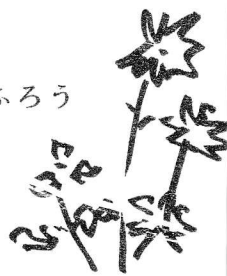
元唄は奥州あたりん芝居かる 引き出した涙ものがたりじゃき  
こっちゃ 肥後街道ん馬子唄に乗せた かけ声ならぬ合いの手が  
凜々しい。

肥後か府内か 一の瀬渡りゃ サノヨイ サノヨイ お国訛り  
が なつかしいや サノヨー イヤ ヨーヤサ

馬に揺られて 旅する人にゃ サノヨイ サノヨイ 馬子のお  
ひとふーし 心にしみる サノヨー イヤ ヨーヤサ

肥後の糸屋の 吉兵さんな サノヨイ サノヨイ 京の修行の  
今 里帰り サノヨー イヤ ヨーヤサ

秋葉越えれば 火伏せの森に サノヨイ サノヨイ ふろう  
煮えたか 諏訪の火じゃ サノヨー イヤ ヨーヤサ





# 五助街道物語

宇曾山物語 No.4





§ 宇曾に出ようか 荒木に行こうか 四辻峠の思案顔  
ハ 七瀬のせせらぎ 小鮎がスイスイ ホイホイホイ §

馬子の五助さんの 声が山並みにこだましち 帰っちくるんもの  
のどかなに素朴な 里が幸せじアルキーカ ソゲー思うと 立ち止  
まっち眺めた宇曾山。今日も天気か そよ風がなんか気持ちいい。

△△△ 浮きつ沈みつ時まかせ △△△

円福寺は大友と島津ん 兵火じ焼失したき 広瀬一徹斎が下谷に  
再建したが 世ん移り変わりと共に 現在地に慶寺 庵となっちよ  
る。神宮寺とした当時を回想すりゃ 神仏集合によっち生まれ 神  
社ん境内や周辺近くに 建てた神社付属ん寺院。7⇒8世紀かる平  
安じゃつたごたる。戦があるたんび 庶民ないつも犠牲に そげな  
時代じ 天台、真言、貴族、僧によっち 各地に創建され 明治1  
年神仏希釈令じ 廃仏がさるるまじ 神僧にゃ天台、真言の僧が多、  
ゆうじ 神宮寺ん僧は社僧、供僧、宮僧ともいわれよった。

じゃが他ん一説を追うち行くと 宇曾鎮守尊神は永暦元年《11  
60》 源左馬守義朝が尾張国 知多郡野間ん内海じ 家臣の長内  
忠政んため無念の最後。お尊子牛若丸は 鞍馬寺奥の院じ兵法剣術  
っ授かり 弔合戦に打ち出ち勝利 源氏ん世になり 分霊を森永照  
盛背負っち こん地に執居しち一字を建てた。

村内一統尊神としち左近 神力により兵法を授かり 朝敵を滅ぼ  
す。新田義貞越前足羽にて戦死 そん与党残らず肥後菊池に 結集  
しち九州南朝ん密監使 天台阿舍利森永左近が 当村に応永31年  
《1425》 円福寺を創るが33年に病死する。苦勞が結ばれない  
そげな人生でもあつただろうが 意志は誰かがきつと 継承も  
するもん。歴史は広がって 円福寺の夢はこれから 長い歴史の舞  
台にも光っていたごたる。

§ 宇曾群山くれない染めて 霧が匂うよ朝山帰り  
可愛いあの娘は 誰の花 ソレ 野津原よーいとこ  
ソレ 野津原よーいとこ ヨーイヤナ §

照盛の死後は村中ん者が 敬神尊崇しち修復を 重ねるが天文、弘治ん頃ん天下は 大いに乱れ天正15年《1587》にゃ大友軍と 島津軍の兵火におうち焼失。豊臣秀吉ん世になるや 広瀬一鉄斎ん館に鎮守信仰する。兵法第1の尊神とは 鷓戸山大明神、鞍馬大天狗張山坊ち、されちよる。

当郷旧日記の天保12年《1842》 写書に加え置き 当郷の暦生古老6人立会い 当郷機密録に見保し詳かなり。以上相違ない事を橋本、広瀬、三ヶ尻その他 村内のかたがたに 尊神のこれある為に書類なく 細川家政権中代官命令により 立会人名年月日を顕彰 後年心得の事。天保12年12月。立会い記録人持ち主 安部半左衛門、角九郎兵衛、工藤左エ門、久多良木長兵衛、小原忠左エ門、橋本八十吉、ち筆跡鮮やかに 書かれちよるんが ゆうわかる。

話がケックシャ高度になったき 連れのうち娘も真剣な 眼差しなっち次ん話ん 展開が楽しみじゃつた。うら若いにまっゆう空かんち 嬉しゅうなった 五助さんなひと呼吸すると 『じゃなチョイトひとよこい シュウカ』ち チッタだったんか 横にごろり。そん肘もつーイヤリが せっせと食い物う 運びよる。

『みんなイノチキデナエ』『ソウデ食わんことにゃな 生きちよられんき』『昔んシタチモ 食うか食わんかん 毎日じゃつたんじゃ ナカロウカ』『じゃな でんそれぞれが 目的があつたきこす 自分な犠牲にしてん やり遂ぐる ソリヤマァ 大事じゃつじゃろうなあ』 娘も感心したり 羨ましいち思うたりすると イヤリが行列作っち エサ運びがつらなつた。



平助は病に伏しちよる 母んために降る雪ん中 山仕事に出かけた。カズラを引いち 炭俵を編む細々とした 暮らしが親子んイノチキゅ支えちよる。短けえ陽がチット傾く頃 冷てえ粟飯う開いた。そん時じゃつた 見すぼらしい旅人が 通り合わせち来た。もう何日も食べちよらんのか 足もとがチット幼稚に 見ゆるもんじゃき声うかけた。

『お疲れじゃろう まゝ一時ヨコイマセン コレよかったら 食べちかる』『…………』 無言に頭を深々と さぐると嬉し涙が頬にキラリ光った。何年も遍路しちよるんじゃろう 押し頂くと震えるゴタル手じ そりゅう摘むと 口に運んだ。食べ残りん分も無理にもたせち 粉雪ん道を見送った。

じゃがチット気になるもんじゃき 坂道ん下まじ追いかけて 足跡を辿っち行くと 振り返った老人から 声がかかった。『ご恩返しは出来ないが 少しカズラを取ってあります 芝を払ってください』 引き返した平助は 仕事していた場所ん コンモリ高うなった所ん 雪を払いのけたところ なんとそこにゃカズラン山が。

老人の去った後は吹雪に ミエンごつなっち そん老人もどこまじ 歩いち行ったかは もう不思議な状況じ 気持ちちが揺らぐ思いになっちしもうた。ほんのお接待ん思いに 応えちくれたにしちや なんと大きなご褒美になる。平助もその場に 暫し立ちすくんだが 『いい事しちよかった』ち 自分に言い聞かすると ダマシ腹がへっち来た。『じゃ昼飯まだじゃつた』

宇曾ん天狗じゃなかるうか ち俄かに評判になったが 日ごろん気持ちにきっと 神や仏がご褒美に くれたんかん知れん。ここを『芝かきはら』ち 言うごつなっちそうな。

§ さとは宇曾から みどりの野から  
 明けりや川面に 鮎が飛ぶ ソレ  
 揃うた揃うたよ 心も一つ  
 野津原よいとこ 七瀬の里は  
 いきいきいい町 ソレ 人づくり §

●●●●● 『宇曾山えの道を辿って』 ●●●●●

じっと覗きくうだ連れん 娘が続きん話う待ちきれんごたる。次  
 ん話しょうするかなあ……天正15年《1587》兵火におうた  
 円福寺はその後じゃ 広瀬一徹齋ん館に鎮守信仰 下谷に再建した  
 あと尊神を奥の院に 鎮座しち神宮寺となった。天正16年頃じゃ  
 今ん宇曾山がはっきりと 創られたんじゃろう。

密仏は円福寺に迎え入れ 日本兵法第1神社宇曾大権現鞍馬天狗  
 張山坊円福寺ん 肩書きも生まれたごたる。慶長6年《1601》  
 入蔵庄屋橋本太郎左門が 下原より引入居の 庄屋広瀬太左次エ門  
 と 世話をしち組内の 授産神も崇拜する。寛延2年《1749》  
 - 広瀬太次エ門の山林 宇曾山ん頂きん石祠に 勧請しち神事う司  
 さどる者としち 広瀬太次エ門を定め 宇曾山奥の院とする。

このような経過によっち 宇曾神社としての 神屋が出来上がった  
 事になった。世話をする人たちやら 周りじそれに関わった 人  
 たちんご苦勞も多かった それにも増しち心くばりに 走り回った  
 影ん苦勞も忘れちゃ ならない事であらう。出来上がれば簡単ち  
 話にこすなっせん それまでん勞苦はとてんもう。

御座岳、精進が岳、と共に宇曾岳も修験の場 修験者は郷に下っ  
 ては 無病息災ん祈とうや 病氣平癒に精魂を また熱心な人たち  
 じゃ宇曾山まじ出向いちゃ精進が岳じ さるる祈とうを宇曾山じ受け  
 よった。





海ん果てまで届く篝火は 遠く関崎かるも見えち 佐賀の関ん  
漁師ん危険な海帰りん 目標にもなっちゃつた。その後ん神社ん  
修復にゃ心んこもった 寄進も寄せられち『宇曾山講』も こん  
程まじ続けられよった。

§ 関の一本釣リャーナー高島ん沖でナ  
波にゃ揺られち サーヨー言ウタヨナ 鯛を釣るワイノー  
アーヤンサノ ゴッチリ ゴッチリ 船頭鯛かな ブリかな  
鯛じゃい 鯛じゃい §

灯たぁいいもん そりー遠んかるん 明かりゃもう 心が救わ  
れたごつ 元気まじ出るき 汐路帰りゃ ダッタ体が 躍動もし  
ち大けな声じ オラビトウモなる。大漁旗もないち 足取りも軽  
う 船は港に一直線……。夜明けん陽の光が 宇曾山ぬ照らし  
ちよるごたる。

『五助さん ここかる見ゆるんな』『何か あ 佐賀の関か』  
『うん』『天気がいいと 見ゆるんど』『そうな』 連れん娘も  
感心したんか まだ見ぬ 遙か佐賀の関ん 港をヒョイト連想し  
た。乙女心が揺るるごたる 五助さんの話しに ヒョカット 男  
前ん いいしが『こっちこんな』ち 手招きどますりゃ どげー  
しゅうかち 夢が膨らんじ来た。

『年頃じゃきのう 無理もねえわい』 五助さんもそげな 優  
しい初な気持ちに揺るる 横顔に 『こんだいつか 連れち行こ  
うかのぉ』『え ふんと』 タマガッチ 『いいど』ち確約しち  
しもうた。娘ン脳裏にゃもう そん日が走馬灯んごつ 浮き彫り  
されじめち 今にもツージ行くごたる。

娘ん夢んごたる気持ちに 似通うごつ ここにも夢んような  
桃源郷ん広がりか 下谷う中心にあったようと 伺えるが戦火に  
右往左往する 感情の際の記録は 計りしれんごたる。

正徳2年〈1712〉阿蘇かる 野津原に代官となっち 着た  
武田三郎衛門尉は 当初は横畑に居宅を構えたが 後に現地にと  
移転した。そこにゃかって女人坊ち 言わるる高僧が寺院を開い  
ち 地元人たちん教導に当たり 多くん人たちに慕われよった  
が 惜しいこち一代限り 廃寺になっちしもうた。

近くに埋葬ん墓はそん 高僧んものといわれるが 一時期にゃ  
多くん人たちん心ん 支えになちよつたごたる。それにゃ心ん  
悩みや路しるべ 暮らしん相談かる 読み書きまじあらゆる 面  
かるん心ん指導を しちもうたよう。巡り会わせた人たちん心  
に すばらしい法ん明かりが 点されたことじゃろう。

円福寺とん関わりは不明じゃが 多くん人たちが神仏崇拜ん  
行き来したこた一考えられるき はじめは円福寺も 関連したん  
じゃあるまいか。ちも思われるが 尼僧がいてお互いの 立場は  
大切にしたようだから 記録には残さなかつた そんな夢があつ  
たのかも知れない。

兵火ん犠牲じすべてが のうなり条件のいいもんは残る。不自  
然さが世の常でんあつた そん頃からん記憶にすりゃ 下谷に移  
り再建復興された 円福寺にゃそれなりん もろもろん理由もあ  
り 記憶になつたりしたが 時代の流れの中じゃ 消されたりも  
した事も多いごたる 思いもさるるがこれも 後ん祭りじゃろう

そげな事は過ぎ去られた それなりん理由もあつたが やがて  
続く 『宇曾山えの辿る路』に なつたんじゃなかるうか。跡地  
に立ち眺める過去の 人たちの努力や結びつきは 今も生き続  
けち地元人たちが 陰に陽に生活に生かす アイデアは先人の  
施しと 感謝しち生かしてこそ 今は亡き人手でも 報いとして  
返されることになる これが世の習わしであろう。あれからすで  
に300年 歴史はくり返されちよるが。



◎◎◎ 方言説明 ◎◎◎

- 57P くるんも…来るのも。アルキーカソゲー…あるからかそんなに。兵火じ…戦争などの犠牲火災。じゃつたごたる…そのようですから。たんび…たびたび。そげな…そんな。多ゆうじ…多くて。じゃが…ですが。
- 58P されちよる…されている。暦生古老…歴史に詳しい老人。ゆうわかる…よくわかる。ケツクシャ…結構。ゆう…よく。チョイト…少し。ひとよこい…一休み。シュウカ…しようか。チッタだったんか…少し疲れたのか。もっ…そば。イヤリ…蟻。イノチキデン…生活でも。ソウデ…そうです。昔んシタチも…昔の人たちも。ナカローカ…あるまいか。でん…でも。ソリヤマァ…それはそれは。
- 59P カズラ…植物のつる。チット…少し。食べちょらんのか…食べていないのですか。ゴタル…ようです。なっちしもうた…なってしまった。くれたにしちゃ…くださったのにしては。ダマシ…急に。
- 60P 話にこすなってん…話にはなっても。とてんもう…とてもそれは。さるる…されるようです。
- 61P 篝火…薪などを燃やして火炎を。ダッタ…疲れた。オラビト…なる…叫びたくなる。見ゆるんど…見えるのですよ。そうな…そうですか。ヒョイト…急に。ヒヨカット…突然に。どげしゅうかち…どうしたものかと。そうな…そうですか。こんだいつか…この次にいつか。いいど…よいですよ。ツージ…飛んで。
- 62P 女人坊…地名で寺院のあった。しちもろうた…してもらった。ちも…とも。のうなり…なくなり。ちよるが…しているが。

五助街道宇曾山物語ん 方言説明ですが歴史場面で やや難しい方言もありそうです。地名などは固有ですので ご了承の程を。

円福寺庵に残ちよる 焼仏は今も地元人たちが お祭りうしよることから 観世音菩薩か薬師如来じ あるんじやろう 南新四国巡りん札所でんある。記念碑んある原村にゃ『南新四国巡拝記念碑』が あっちそん開創供養にゃ 円福寺住職も出席しちよる 明治36年(1903)の 記録が残されちよる。

そん頃まじや素晴らしい 寺院としちよつたんじやろう。現在は宇曾山の神宮寺としての 面影が残されちよらんが 地元人たちん温かな心ん 支えによっち毎月1回 納経や毎年 年末ん祭りもされちよつち 灯が人々ん真心を滲ませちよる。片隅にひっそりと当時の 華やかさこそないが 無言の教えが伝わるごたるんも 不思議な仏の力かん知れない。

山影の朝露に濡れたシャガン花 ひっそり語りかけちくれそうに そよ風に揺れると 寄り道もしたくなる。あたりを見回すとさまざまな 世の移り変わりを見て 過ごして石垣ん一つ一つに 魂があるごたる声が 聞こえちくるごたる。里ん幸せを念じちこん 石段を踏みしめち上がった あん人たちこの人たち そん思い願いを受け止めて 幸せな指針をお告げした 仏の念力は心にきっと 伝わり喜びん顔に 思いに変わったんじやろう。

笹竹が風にそよぐと キラキラ輝く陽を受けた葉。当時ん人たちん悲喜こもごもな 歴史ん流れの中じ 人と仏が語り合う場面が まるで影絵んごと 心に写し出されるごたる 心境に誘われち行くも げに不思議な時間でんある。じゃきこす人は神を仏を大事に護り 施したことが周り回って 報いになっち帰ってくるんじやろう。短い人間の寿命が 生かされる期間かも知れない。

夢がロマンが湧きでるごたる 宇曾ん里にゃ今も そげな輝きが 時折現象になるとか。まさに天界と人界とが 結びついているからであろう。人間の幸せはそこにこす 存在もするようじ。





★★★ 紆余曲折の宇曾山 ★★★

寛永2年《1749》大分郡 入蔵在住説教師ん板山瀬左衛門、同広瀬吉左衛門、同喜助なんかが大いに 信仰を語り世に宣伝した。円福寺と英彦山とん 関わりについて 橋本家に保存する お札によると三韓征伐ん時の 勅により竹内宿弥が 用いたカブトの《世に二面のカブト》写しがあっち これは英彦山系じあることが 頷ける。

当時かるん地名ん 『ウソノヒラ』『ウソノタニ』『ウガキガハラ』『ウド』『ウドノハル』『ウツオ』『コウツオ』『ウガキ』なんかも 今でん同じ呼び名に 連なっちよる。

宝暦2年《1752》に 村に届けた資料によると 宇曾山張山坊円福寺に鎮守、ならびに下谷に移し蜜仏を当院に鎮守する。尊神を宇曾山奥の院に鎮守すること。西天笠より天下りたる 大天狗豊前坊、並天年七洛北松尾山戸召佐々木の 末葉森永左近照盛と申者、入蔵円福寺に鎮守せしを 宇曾山奥の院に勧請すること。

寛永2年大分郡入蔵村居住 板山瀬左護門と申す者、広瀬吉左護門とともに 尊神の神社村内一流信仰仕える事。右の通り御座候也。寛永2年11月入蔵村居住地一説教師板山頼左エ門 同説教師吉左エ門、同喜助とある。《村中一流は村中一統かもしれない》

また明細表にも 大和加茂禪社の 社家板山某が宇曾山円福寺を 建立、天台宗の本尊ならびに 日本兵法第一西天笠より 天降りたる鞍馬山大東坊、豊前坊宇曾大機院張山坊を 勧請とある。寺社の部にも禪寺円福寺、祇園神社神楽師入蔵村 板山近江とあるから すでにこん頃かる『ご願神楽』が 奉納されよったんじゃろう。ち 思われます。昔ん事じゃつたけんど 人を大事に神や仏とん 関わわ通じた心ん 支え合う人間本来ん姿が いつも見え隠れしよるんも 美しいもんでんある。

宇曾山かる眺むる山々に 由布山、鶴見山、高崎山がある。大けな声じオラビ あいながらイロイロン 話しゅしよった。山ん神様ん言葉ん中に 火の山と木の山とん 話しもされよった。火の燃ゆる勇ましさを いで湯につかる楽しさを 自慢すりやぁこっちじゃ 自然の美しさ 優しい水ん清らかさを解いち なかなか結末もツカンジャツタ。

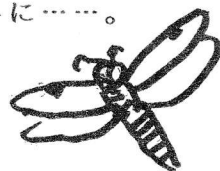
ある日集まっち相撲を 取るこちなった。ガッブリ組んじ勝負すること フタトキはず。そん勝敗は決まんまま 引き分けになった。そん時ン汗が大分川になり 地に入っち行ったんが 何年も積み重なっち 湧いちょるとか。そん行司をしたんが 白衣をタナビカセタ天狗たち。

宇曾三山や鶴見にも足跡う 残したとか 突然現れちゃ消え消えちゃまた現れち ついに勝ち負けにせんじ 引き分けにしたあたりゃ 世の中をうまくまとめ 将来の平和ん元う 創りだしたんかん知れん。天狗とはそげな芸当は 朝飯前じゃろうし 又そげな利用ん仕方は 誰からも文句はなかつたごたる。

#### 〇〇〇 方言説明 〇〇〇

オラビヨッタ…叫ぶような声で。されよった…していた。ジャツタ…でした。こちなった…事になった。たんが…たのが。タナビカセタ…ひらひらなびかせていた。宇曾三山…御座岳、精進岳、宇曾岳。ちゃまた…てはまた。そげな…そんな。じゃろうし…でしようから。ごたる…ようです。

五助馬子唄街道物語 宇曾山物語No.4の場面 いかがでしたか。謎と夢とロマンを秘めた故郷ん 宇曾山霊場にはこげな 話が今も語り継がれち神や仏と 人間が助け合う自然の 姿ん中じ生きて来た。幸せ人生じゃないでしょうか。次号お楽しみに…。





五助入

南  
北  
詩  
人  
談  
話





『愛宕山ないつからあるん』

五助さんが雨じヨコウチョツタラ 近所ん子どもたちが 遊び来た。五助さんな馬方じ 頼まれた荷物を運んだり 旅ん人たちを乗せたり する生活うしよった。

子どもが来たな 理由があった。そりゃー何でんユウ 知っちる物知り それに話がうまい 嫌ち言わん。偉そうに話す人でん 子どもが頼むと 物知りぶっち 妙な顔しち嫌うもんじゃが こん五助さんな もう全くそげな 人を分けへだてたりゃ せんき誰からでん好かれよった。

『お前どう 何事か また話しゅう 聞きに来たんじゃな』  
顔色みりゃわかる それでん断わられんち ちゃんと解ちちよるき ニコツト笑うた 五助さんも 釣りこまれち 皆んなも笑うた。『お前どうがん そんな笑顔が やっぱいいのう』

年上の子どもが 『愛宕山は なしアッキあるんな』『なんやちっと 難しいのう』『りゃー知らんのな』『いんにゃ聞いた話じゃ あるんど それ聞いてえんじゃの』『そうで』皆んな真剣な顔になった。子どもん好奇心な いいもんじ 五助さんもちっと 若がえったごたる。

『ほんな話そうかのう』 タバコいっぶく吸うと 真顔になった。そんな時にゃ やっぱ子どもたちも 真顔になるごたる。

大昔 安蘇ん山が爆発した。皆んなは真剣な 顔になった。そんな時ん溶岩が流れち ここまじ来たんと。じゃき今でん 原村やら竹の内なんかん 川そこは固い一枚石んまま 残ちちよる。が野津原まじゃ 来んままだに溶岩も 止まったんと。やっぱヨダキカッタンカノウ。



『じゃき いつんなかめ一か それが固まっち 今も残っちよるもんじゃき 昔んまに水が流れよる。けんど野津原は大水が出たりすると ちっとなずつ川が エグラレチ底が 深うなっち いつんなかめ一か こげ一低くなつたんと。『そげ一なつたん』まん前ん子ども よっぽずタマガッタンカ。

ところが あん愛宕山は 固い石じ出来ちよるき 雨にも削れんまま 残つたもんじゃき あっき一座つたままになつた。雨や風ん方は弱いち 思うと何百年もする なかめ一 こげなふうになつちしまうき オジイジャロウ。それじソコだけゃ ヒキイケンド 周りゃ昔かるん 高さに残つたじゃな。

『ほら周りゃ 辻原でん 竹の内 でん 船平でん だいたい同じ高さじゃろう。『でん宇曾山な 違うごたるが』『いい所い気がち一たのう やんな やっぱ頭がいいのう』『いいで頭にゃデキモンなねえで』 子どもたちお ドット笑つたもんじゃき 五助さんも 横腹う押さえち 笑いよつた。

『あん山はのう 違う頃にこんだ地かる せりあげられられち ニョキニョキと 出来たんと。じゃき山ん土も岩も 違うそうな。『……』子どもたちも 珍しい話に 物言えんごつ タマガッタゴタル。五助さんな ひげ面をなでながら 『どうじゃ解つたか』ち 言わんばかりじゃつた。

『それでん面白いなあ 爆発したり 溶岩が流れたり 固まつたり 山が せりあがつたり 地の中 どげなच्चよるんか』 子どもたちも ちつた疑問が解けたごたる。『茶でん飲むか』 嫌とん言わん 子どもたちに 五助さんも なしか嬉しゅうなつたごたる。

今でん原村谷、大田谷 福宗谷 竹の内谷どま 川底が一枚岩になつち ちっとな変わらん 水が流れよる。

## 大分食が『がん予防』に

大分県な『大腸がんじ死なない都道府県』ん ランキング第1位  
じゃち 徳島ん小松島んしが 羨ましがりよった。それにゃ野菜ん  
食い方が少ねえごたる。腸が弱うなっち下痢に 悩まさるるんが多  
いそうな。『大腸を強くする』 それじ調べたら 大分県民な食材  
に『さといも』が 日本一多いち挙げられちよる。

ほかにも『乾燥シイタケ』『カボス』なんか 体にいいもんが  
いろいろあるもんじゃき 自然胃腸ん働きう ゆうしよったごたる。  
早う気がちーち見習う いい事じ知っちょつてん 実行せにゃなん  
にもならん 『宝ん持ち腐れ』になっちしまう。しゃんしゃん食べ  
胃腸ん動きが ゆうなる事じ健康な体 豊かな心は幸せん原点。

こん頃ゃ『気仙沼んサンマに臼杵んカボス』ち 9月にゃイベン  
トが 目黒じあるそうな。地元ん産物が飛んじ行く 汗水流した人  
たちん苦勞が 認められた証でんあろう。価格の不安定さも 経済  
流通が左右するき うまいこといかんじゃろうが 頑張っち熱心に  
取り組みゃ きっといい事もあるもん。

関じみかんを各種植え込み 時期を広めた実りん研究。いつでん  
鮮度ん高え『みかん』が 相手に届けらるるち 評判のしがあるが  
そこにゃ 人にゃ知れん苦勞があつてん どうせするんならチット  
デン おいしい喜ばるるんが 儲けにも結びつくもん。欲をぬき  
してん相手が 待ちくれるそげな品物が これからは大事と思う  
がなえ。

消費者があっちこすん 生産者が生かさるるもん。いい品物季節  
を生かした 生産は必ずや評価にもなる。欲だけじゃ通らん 相手  
とん信頼関係。それまでん人間性はすぐにな 無理でんやり通す  
根性がありゃきと 望みは叶うもんでんある。

『ありゅうしちくれん』

『ありゅうしちくれん』『え あれなイイデいつでん』『そうなあしたはどげー 天気もいいごたるき』『アイほんなシコしちよきゃいいわ』言葉んやり取りじ 話の内容は前もっち 頼んだんじゃろう 若いしも忙しい間を 縫うち承知したごたる。農家でんどしてん 一人じゃ出来ん仕事もあるもん。

次ん朝ん早うかる イソイソしち 頼んだに在るもんぬ シコしよるんじゃろう 座敷かる表座まじ 掃きだしち掃除もしよった。女性にしちみりゃ ミットモネエ所あ見せとうはねえ。そうこうしよつたらお願いした人も 向こうかる周囲ん 作物みながら来る。若さがある上に 作づくりが熱心じ 誰にでん好かるき 頼まれも多いごたる。そげな間にチョコットん事う。

『シコはできちよんの』 爽やかな声が全身に 染み渡るごたるに 顔が仄かに紅潮したんが 自分にも解った。『すまんあ 忙しかったろうに』『いいんで 言われちよつたき 予定はしちよつたき』 信頼度んあるしゃ やっばどこか違うもん。いつでん即応出来るごつ予定表に 入れちくれちよつたごたる。

いるもんぬ並べち向かい合うち 困い予定ん場に シャガミクウダ。『交互に指しだすき しゃんと握っち 無理うせんごつ曲げちこんだ こっちにサイデーチな』『やっば難しいもんじゃなあ』『ありゃ はじめちな』『そうで こげんこた一年寄りがするき いっぺんも シタコターねえに』『すぐ覚ゆるき』

時は流れち肌は汗じめれ 手先はもう腫れ物を つまむごつに緊張しち 慣れたち思うと慌てち 手元が狂うたり。焦ると間違えちあ相手ん 手元まじ出しすぎたり。それでん立ち上がっち じっと見回すと なんとここまじゃウマク 行ったごたる。



『あぁよかった いい按配に誰も見ちょらん』 心ん中じゃそげ  
思うと一緒に なしかまるで一人占めした そげな優越感もよぎる  
。前についたゴミを 気がつかんごつ払うと 『まぁちょつとヨコ  
ワندنイイ』『いいで やっちしもうちゃどげー』 何かこんま  
ま終わるんは 勿体ねえ思いがふいと 頭を掠めた。

『そうな ほんな続けちお願いします』『切りがついたら ゆ  
っくりヨコヤいいわな』。大人の仕事の駆け引きんごたる 発言に  
『やっぱドッカちがう』ち 思うた。陽なたが強うなったが ここ  
はまだ影べらじゃき そりーシャガミクウダ そん格好がなにか  
異常な風景にも 見るるんは素人が 相手と作る仕事ん場だけに  
面白い画面にも見えた。

と 相手がたちあがると やおら『初めちしちゃ 上手じゃなぁ  
ふんと』 褒められた瞬間そつと 顔みあげると 相手も見返して  
白い歯がこぼれた。次の瞬間……『私もいい勉強になつたで』 そ  
ん一言はどんくれ 嬉しかったか いつまでん余韻が残る。ふと気  
がついたら頬に一筋 キラリ光る涙が伝っているごたる。

ずっと出来た分を見回しち 『こりゃウマイ』 ニッコリ笑顔じ  
見返したそん 汗した姿体かる男性ん 遅しさが覗いちよるごたる  
。静かに側に座りくうじ 次ん手が動きはじめた。呼応して手で指  
しだし 引き寄せ 曲げながら 手並みも順調に動くのに 自分で  
ん自信が持てた感じになる。

『はい こじ終わりじゃき シマイハこん先うシャト 握り絞  
めち セリコム。マツトしゃんとセリコマニャ 抜くると困るで  
。『ええ』と 小声が出たけど 相手にゃ聞こえなかった そげ  
な気もする。『はい これが伏せ物床ん完成』 ニッコリ笑顔の  
素晴らしい事。嬉しくなって『早う休憩しましょう ご苦勞様でし  
た。心はればれん 完成に感謝のお接待。



### △△△ 伏せ物床 △△△

農家の庭先にゃ 粃すりあとにゃ 粃殻が出来るが この粃殻を『伏せ物床』に置いて 下肥をかけ発酵させて トーイモの育成苗や 野菜類の発芽床に利用する。それらが成長して移植されると 伏せ物床の役目が終わり 秋口から冬に撒く 麦類の待ち肥として サラットしているので 麦類の種を混ぜて 畝に撒くのにも利用する 粉肥《コゴエ》となる。

農家の場合はこんな工程により 資源を有効に生かし再利用などで すべての物が土に帰る 自然培度の方法が取られる。戦前までは科学肥料がなかったので このような方法の廃棄物発酵の材料に 下肥が混合した組み立てで それなりの各家の知力による培度計画がされていた。牛馬の飼育に畦草ん利用 馬屋の肥が田畑の肥培利用と サイクルする巧みさは 長年の農家の知恵とも 言えそうです。

### ★★★ アユちゃんの生涯 ★★★

アユは一年生と言う 春に海から故郷に帰り 苦難の川を上り 豊富な水苔で成長して 秋に再び海にかえって産卵 そこで生涯を終える宿命になっているよう。川漁の人たちは 上りアユを春に海水から離れて 来た河口から谷の生育場で 捕獲する醍醐味だが そこで宿命の犠牲にもなる。

川や谷には好物の藻があって 石に繁茂したその苔を 鋭い歯で削り取って食べるが その藻は早い速度で繁茂する そんな性質もあるので共存繁栄が 約束されているのだろう。途中で漁師に鵜飼いに 網やヤナで収獲されるのも宿命か。清水、石灰石などのある場所は 育ちもよく太りも早い。七瀬川水流もそげな条件を 兼ね備えている。



野之台に疎開しち苦労もシタケンド それだけ想いでも多いんが常に 回想さるんのも『よかった』ち 思う自信も残ちよる。水あん高え所にゃあった。飲料水は井戸水んほか イノコもあつたし田に使う水も なんと染み出じゃつたが 田はいつも潤いよつた。チットデン労力ん配分ち 『培度機』を買い他所んしが 妬み根性んごたる目じ見よつたが 負けちたまるかちハリクウダ。

定期的に通るしが親しゅシチクレチ 話しかけちくるるよそ者扱いせん優しいんは 野津原んし皆んなじゃつたんが 引き上げち帰ちえーと解つたんも やっぱ自分にしちみると 『第二の故郷かん』知れんちしみじみ思う。定期的に交信しあう人と 長話しすりゃ親がゆう『迷惑じゃがな』ち 怒るごつ大事しちくれよつた。

あれかるもう60年余り 人間なら還暦じゃけんど 人の交流にゃそげな言葉は失礼になち いつも『こんまえは』ち いかにも2, 3日前んごつ長話になちしまう。苦労しよつたぬツブサに見聞いちくれよつたそんしも 90になったとか。笑顔が目の前に飛んじくるごたる 懐かしさが甦る。

苦労話しゃこん人にゃ通じよつた そげな苦労ん中ん幸せ人生があつたき 今があるんじゃちしみじみ思う。仕事が変わるたんび報告すると『あんたならやれるき 人を大事しよえ』ち いつも心にきい先生ん教訓のごつ 言うちくれた言葉は耳に 今でも残したい宝物。じゃきここまじ残つたんじゃろう。

たつた一度きりの人生じゃき ぼちぼち『引退しゅうち』 思いを語ると『待ちよるしん気持ち解る』 それを言われると言葉を引込めち もう30年あまり 今年も多くの人たちん心ん 寄り所んお勤めに精進しちよるんが 幸せ人生じゃろうと。

●●◎ 方言説明 ◎●●

- 67P ヨコーチョツタラ…休んでいたら。ぶっち…自慢して。  
どうがん…たちの。ヨダキカッタ…大義じゃつた。
- 68P エグラレチ…中のほうまで抜き取られて。オジイ…怖い、おそろしい。ジャロウ…でしょう。デキモン…吹きで  
もの。
- 69P しがある…人がいる。
- 70P イイデ…よいですよ。シコ…準備。作づくり…田畑での  
生産をする。いるもんじゃ…必要な物で。シャガミクウ  
ジ…中腰になった格好で。サデーチ…差し出して。こげ  
んこた…このような事は。シタコター…取り組んだか  
ら。
- 71P ヨコワンデンイイ…休まなくてもよいので。ドッカ…ど  
こか。ウマイ…上手。シマイハ…終わりは。シャント…  
しっかりと。マツト…もっと。
- 73P イノコ…水の溜まった場所。ハリクウダ…頑張った、精  
出した。やれるき…絶対心配ない実行力。しよえ…しな  
さいよ。じゃき…ですから。待ちよるしん気持ちも…  
信じて待っていてくださる そんな人たちのためにも。

ここまじ信頼されるのも そんな人の人間性が 価値観がそげな  
結果の花となっち 咲いたんじゃろう。うぬぼれじゃない 人  
ん評価こそがそんな人ん 実像でんあるんです。情けは人の為な  
らずとか 回り回って帰す時 そこにや苦勞が実った 宝物が  
光輝いちよるんじゃ’ あるめーか。



# 結業大吉



175.

△ 175



方言単語 『ち』の項から『キ』

チキスムキ……………すぐ終わりますから、やがておわります。  
チギラニャ……………もぎとって、収穫して、手でとってください。  
チキリ……………はかり、計量器具、重さを計る用具など。  
チキン……………すぐに、やがて来ます、間もなく出来ます、ほどよく。  
チキタビユ……………地下足袋、農作業用履物、農業には利便性がある。  
チギッチョケ……………もぎとって、手で取って収穫する、丁寧に取る。  
チキクラス……………ひどく叩いていじめる、ひどい苛めかたをする。  
チキショウ……………立腹して、腹がたって憤慨する、裏切られて悔しい。

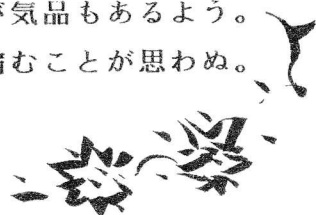
チギ……………秤り、重さを計る、計量用具、ふるくからの計量器具。  
チギッチ……………もぎ取って、手で丁寧に収穫、作業で収穫。  
チクラス……………叩いていじめる、ひどい苛め方をする、乱暴に叩く。  
チクラシチョケ……………叩いてお返しを、乱暴なお返し、被害が心配。  
チクズス……………叩いて壊す、乱暴に壊す、雑な壊し方、後も考えず。  
チクン……………来るらしいが、くるかも知れない、呼ばずに来る。  
チクロウチ……………酒に酔っぱらって、酒を飲みすぎて風体が悪い。  
チクヂク……………湿気をふくんで、水分がたれるように、寄りつけぬ程。  
チクシャク……………陰湿な間になって、鬱陶しくなった仲に、話ならぬ。  
チケメニウイ……………近い間隔に植えて、近く植えないと、近植えが。

チケメーキ……………近づかないよう、寄りつかないようで、来ないから。  
チケーキイナ……………近くて便利、近いので得をする、時にもよるが。  
チケンガトリエ……………便利で助かる、不便がないから、日ごろ往生。  
チケジチ……………近づいて、近いから悪い面も、乱暴に壊す。  
チケス……………乱暴に消してしまう、丁寧にしては、消すのはよいが。  
チケマジ……………近いからこそ、近くて困る事も、近いのはよいが。  
チケクル……………乱暴に蹴る、乱暴な取扱い、人の痛みが解らぬ。  
チケント……………近いのでしょう、ちかいから余計に心配、そっとして。  
チケカリヤ……………近いからよいのでもない、ほどほどが肝心。

ち チコム…叩きこむ、乱暴に叩いてセリ込む、乱暴に押し込む。  
チコロス……………乱暴に殺す、乱暴な扱いで死滅させる。  
チゴナライイ……………地元でできた粉なら、地元産を利用して。  
チゴータラ……………ちがっていたら、ちがうようなら。  
チコナリヤ…近くなったなら、近くて甘える、近くて不便も。  
チコカル……………近いところから、近さを生かした生活。  
チコカリヤ…近いからよいとは限らない、近くを生かすのも。  
チゴーチョラ……………違っているなら、違いは早く訂正が必要。  
チコデン……………近くでも、近いから不便さも、近さを有効に。  
チゴジ……………地元の粉が有利に使える、地元の産品を大事に。

チコクイリュ…農繁期が終わった慰労、区切りが付いて休養。  
チゴチコ……………違うことが思わぬ、違いは早く改善して。  
チゴムリヤ…小さくすれば、縮めて生かす、英知が役立つ。  
チサマ……………おじいさま、おじいちゃん、祖父、年長者。  
チザラケ……………血まみれになった醜態、大変な場面に出会う。  
チザキャウメー…地元の酒は美味しい、苦労した地元の酒。  
チジコマッチ……………縮まってしまって、ちぢこまった格好。  
チシコワシテン…乱暴に壊してしまう、壊すのにもほど程の。  
チシカブッチ……………乱暴にかぶって、急いでかぶったので。  
チジムリヤ…ちぢめてしまうと、短縮した姿、縮めてうまく。

チジマッチ…恐縮して、縮んで吃驚する、縮んだので見直す。  
チシマエーチ…叩いて戒める、乱暴に叩くのは可愛いそう。  
チシマワシ…叩きまわして思い知らせる、乱暴はよくないが。  
チジエ……………思わぬ知恵が出る喜び、知恵は思いつかぬ時に。  
チジネ……………汚いものが、きたないから当たらない、不潔な。  
チジメ……………縮めてしまう、考えないと元に戻らないが。  
チジモ…縮まって、縮んでよいのか、縮む必要があるなら。  
チジユージ…縮んで見かけが颯爽、見かけが気品もあるよう。  
チジウジョル……………縮んでいるのも、縮むことが思わぬ。



た チジクリオーチ……仲よく愛撫しながら、抱き合った仲良し。  
チズキ…土手の普請、土を固める方法ん作業、地固めの仕事。  
チズニヤネーデ…地図には掲載されていない、地図では不明。  
チズケータカ……おねしょしたのか、漏らしたようで。  
チズキン…土固めの仕事にかかった、土地を固めて漏水防止。  
チズマジヤ……地図までは準備してない、立会いの地図は。  
チズムリヤ……縮めてあるので、縮むると予想以上に変形。  
チゼニヤ……真剣した労賃は血の出る思い、高貴な収入。  
チセケンド……小さいけれど、小さいでも使い様では。  
チセナリ……小さいなりに使い分ける、ちいさいから便利。

チセカリヤイイ…小さいのがよい、小さいからつかい勝手が。  
チセグレ……小さいくらいが、ちいさいなら使い道を。  
チゾメン……血に染まった昔の軍旗、戦時品の思い出が。  
チゾウサン……御地藏様、辻の地藏様、地藏菩薩が救世主に。  
チソウサン……ご馳走様でした、頂いたご馳走、接待の食事。  
チソニナロウ……馳走になりましょう、ご馳走さまでした。  
チダルマ……血に染まった怪我人、怪我をしたのか出血して。  
チタク……叩いていじめる、ひどく叩いて、乱暴に叩く。  
チタケ……叩きなさい、叩くように命令する、暴力は悪い。  
チダラケ……血にまみれた醜態、血がついた様子は異常。

チタタク……ひどく叩いて困らせる、暴力はいけない。  
チタカルル……叩かれても我慢する、暴力には向かって防ぐ。  
チタマガル……吃驚してしまう、驚きが異常で怖い存在。  
チチュ……乳をほしががる子守歌、父親を捜す子どもの姿。  
チチコマッチ……縮んで座り込む、寒いのか縮んで震える。  
チチコマツル……縮んで寒そうに、寒さ絶えて帰りを待つ。  
チチボ……ちちぶ、野性のちいさな実、鳥のえさについばむ。  
チチマワス……激しく叩いて折檻、非常に荒く叩いている。  
チヂンジ…縮むから大丈夫かな、縮んで模様が変形している。

ち チヂリバラバラ……散々に広がって、散らばったありさまに。  
チット………少し、ほんのわずかな、すこしでよいので。  
チットクリー………少しください、少しでよいのでほしいが。  
チッタイイ…少しはよいようで、ずいぶんはよくなったので。  
チットデン…少しでもと思っ、すこしでも解放に向かえば。  
チットグレ…すこしくらいは、ほんの少しでも、些細な事ことで。  
チットハ…少しは、ほんのわずかでも、ずいぶんよいと思う。  
チッタヨカロ………少しはよいと思う、よいほうだと納得。  
チットガ………少しのことが、すこしであっても、少しが元で。  
チットン………少しもはかどらない、少しの進歩もなくて。

チツテン…散っても後に、散ったけれど余韻が、散った後の。  
チツヂシモウタ………散ってしまって、散ったのはよいが。  
ヂットシチヨル………静かにしているが、おとなしくしている。  
チツチョキャ………散っていれば、散ったのなら後は整理して。  
ヂツネエ………しつこい性格、うるさいような、嫌われそうな。  
チツタカ………散ったのですか、散りましたか、ちっではもう。  
チツタント…散ったのですか、散ったとすれば、散れば終り。  
チデリヤ………土地が照りすぎる、乾きすぎるようで。  
チテネ…来てほしいが、来てくれるといいが、切れけると。  
チドマリヤ………血がとまればよいが、止血すれば一段落。

チットンシラン………少しも知らなくて、知らなかったの。  
チナゲーチ………血を流して大変、止血しないと後が不安。  
ヂナシゴロ………役立たずの、日ごろが大事な世界。  
ヂナシュ………訳のわからぬ事を言う、話が解らぬ困り者。  
ヂナラシュ………地面を平らにして、整地する事で後々の。  
ヂナンデン………次男でも、痔であっても病気は、用心第一。  
ヂニウイ………地に植えたがよいのでは、鉢より地に植えこむ。  
ヂニアイチシュ………自然との語り合い、自然を愛してこそ。  
ヂニサセ………地に刺せばつくと思う、枝さし良好、挿し木が。





ち ジヌリ………下地にすぐ塗りつける、中塗りにゃいい乾き。  
チネント………自然になじむから、そっと慣れてくる、慣れよ。  
ヂネンニ………自然と解るもの、慣れたらもう大丈夫。  
チノミチヤ………女性と特有の病気、産後の経過でかかる。  
チノミゴ………乳のみをする幼児、幼い幼児の呼称、おさな子。  
チバエー………血気盛りの若者、興奮する性格、元気印の青年。  
チビリ………少しずつ、漏らして、些細な問題、間違いの原因。  
チビリヤ………漏らせば大変、少しの刺激で失禁、高齢者特有。  
チビツチヨル………漏らしているよう、失禁が出始めて。

チピンクシ……小さいのに、子どもとっていたのに、わせ坊。  
チビデン………小さくとも、子供とっていたが、成長が早い。  
チブソー………乳房を、まだ乳のほしい幼児、まさぐる愛らしさ。  
チベテー………冷たくて、冷たく震い上がる、凍傷に用心を。  
チベテー………地の上に直接、干し物や乾燥対策、素足の感触。  
チボクレチヨル……縮んで小さくなる、枯れたのか腐ったのか。  
チボンジ………縮んで張りが無い、縮んだようで駄目になる。  
チマミユ………打撲による出血、打ち身の現象。  
チマス………怒って叩く、腹立ちまぎれに叩く、乱暴に叩く。  
ヂミツケナ………灯明を、灯芯に火をつけて、明かりをつけて。

ヂミユウツキ………灯明、灯芯に火をつけて、明かりをつけて。  
チメテー………冷たくて、手がこごえそう、凍傷に気をつけて。  
チモナミダモ………悲しみは分かち合うもの、人の気持ちも大事。  
チヨウサイポーズ………傷か化膿して膨らむ、早めの手当てを。  
チヨロムケ………男子の包皮が完全に開いていない、幼児の象徴。  
チャドゲシュ………あらまあどうしましょう、大変どしたらよい。  
チャランバラン………散々な気まぐれ者、いい加減な性格。  
チャントミレ………しっかり見据えて、確認する程の器量も。  
チャリ…………神楽に出る道化役、舞台に愛敬を誘う役。  
チャンコスリヤ………座りなさいね、お座りができた、お利口。

ち チャンチャンバラ…激しい争いに、喧嘩口論、荒々しい争い。  
チューグレ…中途半端な、いい加減な性格、無責任な人間。  
チユングレン…まったくいい加減、無責任にも程度がある。  
チューシヨ…駐車しておけば、注射しないと、予防注射も。  
チュウテン…そういっても、それは解るが、無理は禁物。  
チューレンナ…いい加減な性格、安心はできない、無責任で。  
チュウカンガ…いい加減なお人好しで、おもしろおかしい。  
チュークレージ…いい加減な、あんまり当てならぬ、無責任。  
チュウテンカン…いい加減な人間、当てにはならぬ人材。  
チュウニデン…それなのに、それ以上に、注意しても。  
チュウタモノ…そうは旨く行かない、あまり信頼は無理。

チヨランカ…してないか、多分無理では、信頼はできないが。  
チヨボチヨボ…少しの程度、まゝまゝでは、当てにはならぬ。  
チヨイタナレタ…少しは慣れたよう、時間が掛かりそうだが。  
チヨーエキボウズ…囚人姿の人たち、刑務所の中での生活。  
チヨロマキ…少し撒いて見る、試験に撒いて成果を。  
チヨコツト…ほんの少しの、些細な事でも、原因が不安。  
チヨボウエ…手植えの無間隔で、自由に植えつけて。  
チヨコ…杯、栗の実のならない分、酒飲み用具。  
チヨロツト…ほろ酔い気分の、うっかり口滑らせて、失敗。  
チヨロマカシ…ごまかした、悪用な方法、いつかは解る。

チヨロムケ…少し包皮がめくれて、成人になりつつある。  
チヨイトスリヤ…もしかすれば、まさか吉報、夢が実現に。  
チヨル…している、できたような予感、完成の夢達成。  
チヨイチヨイ…時おりに、たまたまに、期間をあけて。  
チヨウチンブルマ…女学生体育バンテ、戦前女学生下着。  
チヨウチヨコ…蝶の呼び名、子供が呼ぶ蝶の呼び名。  
チヨロムキヤ…男子供の性器の包皮が開いて亀頭が覗いた。  
チヨツト…少しは、ほんの少ない、瞬間の出来事、束の間。



ち チンタツグサ………男性性器が馬力だすような形容、ニラ。  
チンメー………小さくて、小さいので、こまやかな、けちん坊。  
チンモジ………小さいもので、やっと幼稚園です、これから。  
チンボンサキ………男性性器の先っちょ、大事な器官の一つ。  
チンモデン…小さくても役立つ、小型でも立派な、必要部品。  
チンショウチ…水せき漏水防止の詰め物を沈める、漏水防止。  
チンドルカタ………血まみれになって、激しい喧嘩の結果か。  
チンネセチ………格闘してねじ伏せる、相手を負かした。  
チラット………ちよつと見ると、横目で眺めると、寸暇に見る。  
チランポラン………いい加減な性格、あらましで始末が悪い。

チラバッチ………散らかして、乱雑でも苦にならない、不潔な。  
チラサルリャ…散らされると、散らばった場所では、不潔な。  
チラシチョケ…散らしていても、散らかっていても気にせぬ。  
チラケーチ………散らかしていても、気にせぬ、苦にせぬ人も。  
チリサキュ………塵の先にも実が残っている、最後まで有効に。  
チリチリ………気が付きすぎて、緊張しすぎて、心配しすぎ。  
チリデリ………散らぼってしまう、散々に分かれて、分散好み。  
チリンナコデン…塵の中にも宝物がある、小さな中から宝も。  
チルカンシレン………散るかも知れないので、散りそうで。  
チルソベ………散っている側にたって、花吹雪もいいもん。

チルモンカ…散らしちは勿体ない、散らさないから、時期を。  
チルエ…散りますか、散るのもよいが時期を見て、適期適散。  
チレンワン………散らないですよ、散らないから、散るものか。  
チレチヨル…散れています、散れる時期かも、いい時期引退。  
チレチャオモワン………散るとは思わないが、散る時期も大事。  
チロードチ………散る予定にして、散る時期を見定めて。  
チロモンナラ…散るようなら惜しまれる時、時期が大切社会。  
チロー…散りましょう清く美しく爽やかに、見事な散り映え。  
チロリントシチ………落ち着き爽やかに響く音色、後味のよさ。

先人が故郷で生活に上手に使った 野津原方言の調査をはじめ  
て25年目 その単語を『あいうえお』順に 分割して毎回その  
説明をつけ №10号《平成20年10月号から》 現在『つ』  
の項まで《№24号平成29年10月号まで》 総計は98Pに  
掲載してあります。まだ『つ』項から『わ』項まで 毎回分割し  
て掲載して行きます。

つ ツージケ……飛んで行きなさい、急がないと、走って行け。  
ツークリャ……飛んでくれば、飛んできなさい、急いで来て。  
ツゴシヤ……この腰が痛む、腰痛に悩む、働きすぎが。  
ツテンノカオ……冗談ばかり言うて、面白屋で困る、道化。  
ツジョキヤ……飛んでいれば、急いで行けば、いそがないと。  
ツジョツテン……飛んでいても、急いでいても、むだ足は。  
ツレンヌ……冗談ばかりいう、相手にされない、お人好しで。  
ツカーカ……意気投合する、信じ合うから、信頼される。  
ツジキー……急いで来なさい、飛んできて、忙しいので。  
ツクレンノ……適当な人間で、あまり当てにはならぬが。

ツシロガ……怠け者で相手には、当てにはならないので。  
ツゴケチ……慌てて転んだ、不用心な性格で、品の悪い転び。  
ツタンヌ……頭が大きめで、頭から来て、大きな頭を有効。  
ツイーニ……強いもので、強さが取り柄、強いために害にも。  
ツイーヌ……強いものだから、人に頼られる、強さが取り柄。  
ツイト……すぐに間に合う、同じで、合わせられる、両輪。  
ツイーキ……強いものですから、強いだけでは、強さ優しさ。  
ツイジョル……継いでいるので、連なっている、つなぐと。  
ツイデンコチ……ついでにここまで、出た機会に見た、機会得。  
ツイチクリャ……ついてくるなら、連れていくから、連れ添う。

ツイジョケ……ついでにください、ついでにおいて、ついでおけば。  
ツイチヨル……付いているので、付録にもらう、落とさないで。



つ ツイタチャ…付いたと言う、着いたようで、着きましたので。  
ツイタカエー…着いたでしょう、着きました、ついたですか。  
ツイチョローカ…付いています、着いたようで、側について。  
ツイチヨキャ……着いているなら、付いています、つきます。  
ツイテン………着いていても、付いたなら、ついたら大変。  
ツイデン……ついでの際に、わざわざでなくても、その時に。  
ツイチク………ついてゆく、連れなっていく、一緒に行く。  
ツウジ………飛んで、急いで、慌てて走る、走りながら。  
ツウダモンジャキ…走ったもので、飛び回って、飛んで来た。  
ツウジクル………飛んで来たので、走って来たから、急いで。

ツウシロー………慌てずずるい、動きが遅くて、緩慢な性格。  
ツウダナ………とんだのは、走ったのは、急いで走ったので。  
ツウデン………飛んでも、走っていても、急いで来たので。  
ツウテンカン……いい加減な人、調子のよい人、信頼が少し。  
ツウジモドル……飛んで帰ります、走って帰る、急いで帰る。  
ツウカン………感じ易い性格、意志の通じ合う、すぐ感ずく。  
ツエチーチ………杖を付いて、杖に頼って、杖が足の役も。  
ツエドマ…杖なんかも使えば、つえは事故を防ぐ、護身用に。  
ツエタンカ…つぶれたのか、壊れてしまった、だめになった。  
ツエチョリヤ…つぶれたのなら、つぶれて役立たず、駄目に。

ツエノ…つぶれてしまったら、壊れた途端に、駄目と思った。  
ツエメ……壊れないよう、潰れないだろう、壊れてしまうか。  
ツエジャキ…杖ですから、杖がたよりになった、杖を頼みに。  
ツエタ…潰れてしまった、壊れて終わりに、もう駄目なよう。  
ツオユーテン………強くは言うても、意志張りでも所詮は。  
ツオクリヤ……つよく言うなら方便も、強ければされなりに。  
ツオユーテン……強く言うでも引け目もある、言過ぎは損に。  
ツカマラン…捕まらない、捕まらないので、いつかきつとは。  
ツカマリヤ……捕まれば、いずれは捕まるのに、早い反省が。

つ ツカマエチヨケ……捕まえて、留置しておく、とめおいて。  
ツカマエソコネ……捕まえ出来なくて、逃がしてしまって。  
ツカン…着かない、着かなくて、付かなくて、突かずに終り。  
ツカンジョケ…付かなくてもよい、着かなくて、突かないで。  
ツカンナ…着かないようで、着かないのなら、突かない事に。  
ツガレンゴツ…つがないようで、つがぬ事に、つぐのを遠慮。  
ツガセンキ……つがせないので、つがないほうが、つぐまい。  
ツガンノナラ…つがないのなら、継がない、継ぐまいと思う。  
ツガニャ……つがないのなら、つがにないから遠慮する。  
ツガッチョル……交尾している、連なっている、交尾の状態。

ツギンカキ……つぎの時に間に合う、つぎの際にたのんで。  
ツギンツギいずれの時に、次のその先に、順番の通りに先で。  
ツキヤク……生理、女性特有の生理期間、周期の巡り合わせ。  
ツキヤクモル……月は雲に隠れて曇ると言う、雲が隠すから。  
ツギンシニ……次の人に、順番に、次の当番に。  
ツギテン……継ぎ手の、連ねた手道具、つなぎ手の道具。  
ツギヨリヤ……次寄りには、次の番継ぐ、順番に継いで行く。  
ツキスワッチ……じっくり座り込んで、落ち着いて座った。  
ツギユセンギ……次を捜してみらねば、次が出来るまで。  
ツキムキ……面と向かって言う、はっきり物事を言う。

ツギハギン…つぎ当てをした着物、継ぎはぎでも丈夫だから。  
ツギツネつ…ぎつぎと起こる、移動する、移り変わる、降る。  
ツクレンゴツ……つまらないことを、役にもたため事でも。  
ツクリユウチ……修理しながら、補修してまで、再利用。  
ツグット……急に身がしめるような、瞬間的に身が締まる。  
ツグリユ……蛇が丸くなって、丸くなって威嚇する。  
ツクナリヤ……折れ曲がって、倒れかける、今日に倒れる。  
ツクッタキ……作ったので、御手際のよいところ、おひとつ。  
ツクレンネエ……たいしたこともない、恥ずかしい思いで。



つ 『つく』に連なる方言は 非常に多いきチット 並べました。  
ツクキ…突きます、着きます、付きますよ、餅をツクキ、ごみ  
がツクキ、電気がツクキ、仕事にツクキ、席にツクキ  
、米をツクキ、土手ん土をツクキ、失言をツクキ。

ツクノ…餅をツクノ、席にツクノ、バスがツクノ、電気がツク  
ノ、お客さんがツクノ、油が着物にツクノ、嫌われる  
発言をツクノ、流れた水がツクノ、羽をツクノ、など  
。

ツクデ…相手の発言に意見でツクデ、米を水車でツクデ、バス  
がすぐツクデ、電灯がすぐツクデ、軒先を鏝じツクデ  
、魚を金付きじツクデ、相手の汚点をツクデ。方便ち  
嘘をツクデ、磁石に蹉跌がツクデ、根がツクデ、洗っ  
たら色がツクデ、泳ぐと向こう岸ツクデ。

それぞれん味があっち 先人が使いよった言葉ん やりとりじゃ  
優しい情愛も こめられちよるごたる。ほんな方言単語に行くか  
なぁ…ここまじに 単語が20981語に になりました。

つ ツクネクウジヨケ…雑にせりこんで、あらましに整理して。  
ツクリタテチ…上手に組み立てて、うまい具合に設計して。  
ツクレンナ…たいしたこともないのに、役にもたないような。  
ツクナツチ…座り込んでしまう、動けなくなって、大丈夫なの。  
ツクンイテーナ…頭の傷みが、頭が痛みはじめて、頭痛やみに。  
ツクナランナ…座り込んで大丈夫、世話はないのですか。  
ツクネチ…まとめて、雑にひっくるめて、雑にかたづけ。  
ツクガフチ…頭が大きいので、頭でっかちな。  
ツゲンハゲン…いら立ち紛れの発言、暴れ放言の言葉使い。  
ツケリコネチ…雑にこねまわして、あらましや調理準備。  
ツケマワツチ…怪しげに付けまとう、用心しないと危険。

つ ツケドマハラエ……かしたのははらって、貸したのは戻して。  
ツゲンツゲン……あらあらしい発言、乱暴な言葉使い。  
ツケツケ……威張り言葉で言う、物言いが荒くて、乱暴発言。  
ツケドンニ……威張った言葉使い、人に嫌われる言葉使い。  
ツケラレチヨル……尾行されているような、油断は禁物です。  
ツゲグチャ……人に告げ口するは最低、人に告げ口は自分晒。  
ツケンカ……付けなさいよ、着けたらどうですか、付けて。  
ツケレメー……付けられないよう、着けられませんか。  
ツケルリヤ……つけれるならば、つけたら大丈夫。  
ツケヨリヤ……付けていれば来るから、つけて待てば来るよ。

ツケモンナ……漬け物はおいしいので、漬け物上手な指導。  
ツケメー……つけないでしょう、つけないのがよいかも。  
ツケマエーチ……尾行した人がどうやら、相手に用心を。  
ツケヨセン……つける時間がなくて、ここで組み立てて。  
ツゴンイシヤ……都合のよい人は、都合次第で帰っても。  
ツゴウチヨル……交互に寝ている、交互に交差している。  
ツゴワリー……都合が悪いので、時間があればまた。  
ツゴキメチ……都合を決めて予定を、企画をよろしくお願い。  
ツコドチ……ついてみたいので、ついて試してみます。  
ツコータド……つかいましたので、つかって調子がよくて。

ツコーチ……使って、使いかってがよくて、理想的なもの。  
ツコモンナラ……使うものなら、つかうならこんな品が。  
ツコータ……使ってみました、使って非常によいと思う。  
ツコチヨケ……使っておきなさい、つかってはいかがですか。  
ツゴユウジ……都合がよいので、時間がありますから。  
ツゴユウオモイヨル……相手も都合がよいよう、意見一致に。  
ツザヒンノメ……つばきは飲みこめ、つばきは上手に処理を。  
ツザブクロ……仏の世界の財布代わり、お接待を入れる袋。  
ツザハクナ……つばきははかないこと、そっと影で処理を。



つ ツシアギー……馬屋の二階にあげて、小屋の二階は物置き場。  
ツジユ……辻を知らせて、辻は集まりの場所、辻は涼しい。  
ツジベラ……辻の方側の場所、日当たりのよい、眺めがよい。  
ツジヨリヤ……辻よりも、辻より眺める景観、辻は集まりの。  
ツジマジヤ…辻までは上り坂、辻の地蔵様に、辻までは元気。  
ツジヤイイ…辻は思い出も多いから、辻に上ると誰かに合う。  
ツジンワカサレ……辻は分岐点でもある、道知るべにもなる。  
ツズツタキ…綴って保存します、綴って参考にする、保存に。  
ツズドマ……つばきなどは、つばきと泥で巣をつくるつばめ。  
ツズラルリヤ……綴られるならば、綴って保存すれば。

ツズツチヨケ……綴ってほぞんすれば、綴った大切な資料。  
ツズケテン…続けておればよい事も、継続は力なり、継続を。  
ツズケタント……続けたようです、継続したようで、頑張る。  
ツズトバシチ…つばきを飛ばせて話す、熱演につばき飛ばせ。  
ツズラ……植物の弦で加工した入れ物細工、衣類など入れて。  
ツズ…つばきの意味、生傷につけて止血材、殺菌効果もあり。  
ツタワラン……伝わらないので、連絡がつかないままに。  
ツタユリヤ……伝われるものなら。伝えたら、伝える方法。  
ツタウナイイガ……伝わって行ければ、伝わりながら渡る。  
ツタウキ……伝いますから、伝わって行く予定です。

ツタイビヨウシ……伝わり歌や拍子、渡り拍子など。  
ツタエチャレ……伝えてあげなさい、言つてあげなさい。  
ツタユルカ……つたえましょうか、伝えておきますから。  
ツタエテン……伝えても受けるか、つたえておけば。  
ツチブウ…かぶつむしの幼虫、夏の風物になるかぶと虫幼虫。  
ツチジシヤント……土で固めて準備する、整地した後の固さ。  
ツチイリュ……土をかぶせて根を張らせる、培度栽培方法。  
ツチイジリュ…土を利用した遊び、幼児の好きな遊びの一つ。  
ツチカビユ……土に育つかびるい、カビの媒介で栄養土に。



つ ツチツカイ……土と上手につきあう、土をうまく生かして。  
ツチグチ…土に話しかけて、土の適材適所を考えて利用する。  
ツチンナケ……土に入りこむ熱心さ、情熱を傾けてこそ。  
ツチマミリ…土に汚れても気持ちを伝える、土が好きになる。  
ツチカルツクレ……土を作ることが作物を作る初歩、土作り。  
ツチグリユ……土の固まりの利用方法、土と仲良しになる。  
ツチヤ……つちですか、つちならここにあるよ、樋はここに。  
ツチン……樋の重さ、樋と仲良しに、樋の有効利用。  
ツチオツ……樋音で健康管理、樋音は作物の良否も。  
ツチンカユ……樋の代わりがほしい、樋の使い分けで。

ツツキマエーチ…箸であたりさがして、いたずらに箸を使う。  
ツツンジヨケ……包んでおくこと、包んで丁寧に、きちんと。  
ツツミュ……包みはここに、忘れないよう、内容の確認も。  
ツツロク……前後に交互に動く社会好誼、人間らしさの表現。  
ツツキモウサン……つついてもまだまだ、とてもじゃないが。  
ツツウダカ…包みましたか、つつんだらきちんと、内容確認。  
ツツクリヤ……続けていれば、継続は強い、頑張れば成果も。  
ツツハクナ……つばきははかない、不衛生な事はしない。  
ツツンサキユ……筒の先はなにが、それぞれの役割がある。  
ツツツチヨル……緩ってあればすぐ間に合う、整備が大切。

ツツルンカン……緩れたら緩って保存、すぐ役立つもの。  
ツツマニヤ……包まないと、つつんできちんと、内容確認も。  
ツツネエ……汚い嫌われないよう、不潔は嫌われる。  
ツツ……つばき、つばめは我がつばと土で巣をつくる。  
ツツキマワス……乱暴につついている、見た目にも不潔。  
ツツエジエ……てずるがあれば、依存する人の紹介も。  
ツツエガアローガ……知った人の紹介なら、推薦者があれば。  
ツツエンカオ……しりべの人の顔で、紹介者の役割も。  
ツツエデン……紹介者、推薦者、人脈利用も効果。



◎◎◎ 今市について ◎◎◎

古くは市のつく場所を 人の集散する所とされ 自然に人も定住しちゆき集落も出来た。栄枯の繰り返しの中に 幹道ん開発じ今日を迎えた地区も 少のうねえようだ。野津原ん古市が古町になり 現在ん野津原地域ん 中心地形成んスタートにもなった。今市も今ん字がつくから 新しい基地としたち 言えそうだが行政区ん変貌じ そんな都度名前が変わったとも 考えられる。

江戸期間になっち直入郡 大野郡かる 近時は大分郡に変身した 歴史ん中じ 寛文4年《1663》に 郷土ん人たちん協議による 今市と された記録もあるき やがては地域民の中心に なるじゃろう事う見越した 決定とも受け取れる。事実こん中心地は やがて参勤交代道としち 岡領、肥後領、ん行列ん 利用があった。

それが宿場町に発展し 人の物資の集散基地なんかにも 広がって現在の位置づけにもなった。当初は『おぼね街道』と 位置づけち繁栄を夢みたものの 何分にも寒冷地じゃき 冬ん凍結予防やら夏期間の雨に 路面の欠損も苦慮しよったが 石を敷き詰めた技法は まさに天下逸品になっち 平坦地に約600メートルんも 美して『石だたみ』の景観な 全国的にも珍しゅうじ 価値もあるち 評価されちよる。

道中ん休憩ん楽しみに お接待とされよった『そば』ん 素朴な手作り料理にゃ 懐かしさが込められち 語り草にもなっちよった。馬子が行き来する街道に 時ならんじ聞こえる馬子歌は 素朴な片田舎じ生活する 労働者ん生活ん声 が 込められちよるごたる。

§ アオよ いさめよ 宿場はそこじゃ あれが街道の石だたみ  
ハ 七瀬のせせらぎ サラサラサラサラ ホイホイホイ §  
§ 宇曾に行こうか 荒木に出ようか 四辻峠の思案顔  
ハ 七瀬のせせらぎ 小鮎が スイスイ ホイホイホイ §

神仏混合ん時代は久しかった 仏教が入っち以来 仏を大事にする気持ちが そげ一させよったんじゃろう。寺にゃお宮が お宮にゃ寺があったりが 自然の姿でんあった。そこに建てられる鳥居や楼門 建造物にゃそれらが 伺えよった。諏訪神社ん奥の院にゃ観世音菩薩や 諏訪にまつわる仏たちが 祀られ鳥居がそりゅう表しちよつた。

明治に入っちかるは 神と仏が別々に祀られる ごつなつたもんじゃが 現在も建造物はそのまま 保存されち特に 美しい文化としち大切に守られておる。そんな古い時代に そんな心をこめられち作られた 鳥居なんかを見ると 先人の素晴らしい気持ちが 滲みでちよるごたる。

岩肌をしたり落ちる湿った 水苔に根をはった 鹿子百合が今年も いじらしい色に咲いて 尋ねる人たちん心に 何かそっと囁きかけるごたる。ここだけじゃき咲くんか それとんそん人の優しい気持ちに答えち咲くんか 毎年変わらぬ風情は 何百年も夢とロマンをそっと抱いて 仄かな香りを漂わせよる。

丹精込めち手入れする人に 恩返しするような 心くぼりするそん百合も 過ぎた昔のさまざまな夢物語は 言わないけど それが歴史であり過去現在未来に 連なる歴史の決まりかも 知れないと納得すれば あえて聞かないのも 親切の押し売りにならずに済むのかも知れない。

ひんやりそよ風に 静かに揺れる鹿子百合 ひっそりと物言わぬ純情可憐な なりふりは先人の性格を まるで受け継ぐように そっと笑顔で迎え送ってくれる。蝉時雨の鳴き声に 調子あわせるように そっと風に任せて身をゆする。そのなんとイジラシイ事。



## 『子どもの逆修墓』

寺町にある寺の裏庭に 古い子ども逆修墓があり 静まりん中にひっそり建ちよる。可成りん大きさと そんなスタイルんよさ そげなんから想像しち 刻まれた文字が一部欠けちよるが 当時ん財んある人が子どもか 孫ん為に生前に建てたんじゃろう。先祖代代ん繁栄を祈念した 文字ん跡う見るにつけてん 童子供養ん想いん建立じゃろう。

こんあたりゃ古くかる 墓地も多かった場所だけに 一番理想的ち思う親心も伺える。のちここに寺が移住したが そこじ権現村寺町ち呼称さるるごつ なったんも何か因縁も あるように感じる。恐らく墓地らしい場所か 小さな寺か庵があったんか 寺の創設に移されたんかは さざかじねえし 知る由もねえけど 巡り合わせた偶然かも知れない。

大きさかる見ても相当な 財ある家の人じゃろう 違わないような形がそりゅう 物語ちよるんも痛ましい想い。当時ん豊後州野津原ん時代 室町後期ん作とも受け取れる。

戦国時代にゃ戦乱や戦火に 追われてここまじ辿りつき 命尽きた多くん人たちの末期 心ある人たちが供養に 埋葬したもんも多かったと聞くと 無縁仏があっても 可笑しくないような環境じ 寺町と付けられたそん気持ちが ゆう解る想いにもなる。時代ん流れん中じこくう 終生ん場にしたんも 大事にしちくるるち 信じたからかん知れない。

冬は冷たい北風じあってん 夏の涼しい風に慰められる そげな場所だけにきっと今も 心安めち昔日の暦を 繙いているんじゃあるめ一か。これが人生の巡り合わせ 世話になった時代ん人たちに 感謝しながら出来る世話を しているんかも知れない。

## 『能登神楽の優雅な舞』

野津原に京都かる 神官、神楽師とともに 寛永2年《1625年》に 入っち来た能登神楽。京のみやび優雅さを 保つ舞いん 大神など8つん舞いが 奉納されよった。大神にゃ神楽唄があっち 口うつしに伝承されちよつた。が途中じ若い人たちん不足 世話をす人たちん関係じ 一時は絶えてしもった。

神楽ん一部は数年前に 復活しち若い人たちが 継承し舞っているんじゃが 九州ん勇壮な神楽たあ 異なる優雅さがあっち そん手振り身振りは目を奪う。4人舞いを 第6回ん『ふるさとまつり会場』ん 前夜祭り披露したが《1993》 あれかるもう30年はず 過ぎちみると又 仄かに懐かしゅ回想さるる。

大和かる入っち400年余り そんリズムに先人たちは どげな想いじ聞いちよつたんじゃろうか。主に入蔵地区が舞うけんどこん祭りにゃ同じ地域ん 岡倉神楽が奉納されよる。勇壮な神楽拍子に乗せられた 神楽師たちん動きは 拍子に乗せられるんか 舞いに拍子が引きこまれるんか 相乗効果が妙なる場面を 醸し出すから不思議。

33番が舞われていた かつての農村娯楽ん最先端の神楽 でん岩戸神楽はそれなりのよさ 能登神楽にもそれなりん気品。それらを伝承しちこす 価値もありそれが農村の 娯楽ん一つじあってん人ん心に 喜びを与える施す事は 最大の宝物と思われる。神に仕えた神楽でも人の 心に安らぎと喜びを 与える喜んで楽しむ時 内容はともかくとしてん 人の心に受け入れられる 幸せ人生ん大きな糧にもなりそうじある。

人間は弱い動物じゃがそれに 強さの力を与えるのは 心の味方 心の喜びがそうさせてくれるもの。笑顔で見る姿は天真爛漫でんあるき もう最高じゃなかるうか。





89 P おばね街道…山の尾根つたいに通るような 場所につけられた呼び名で 岡領じゃ大野川そいが 平地も多くて便利だが それだけでなく山間地の領民の 経済効果や交通至便なども 考えた幹線道路。石だたみ…高零地のため冬の凍結霜とけなと防止、降雨の道路表面の土の流失防止、景観の気くばり、などを加味した施策で 大掛かりな工事により完成。

90 P そげ…そんな。ごつ…ように。

91 P 逆修墓…生前に建てておく墓。で追善が自分で出来なくとも前もって してあげておく心くばり。野津原には石垣原合戦に出る前に 逆修墓を建てて《これは自身が建てて》 合戦に向かった墓がある。寺町…そのような理由も重ねて この地域には府内からも 追われてここまでは 逃げ延びて着た。ここで命尽きた人たちも きっとあったと想像される 無縁墓があるように思われる。

92 P ふるさとまつり…平成元年から町内の人たちが 一堂に集って秋の一時を楽しむ ふれあい交流の場づくりのまつり。年によっては会場が変わる事もあった。

◇ 岡倉神楽…日向神楽を継承する岩戸神楽で 岡倉地区での伝承で 小野実五郎が大野町から 伝授して帰り地区民が練習して 毎年地域の祭りなどに依頼されて奉納神楽を舞っている。

◇ 白家神楽…今市地区に継承されていて 現在も依頼により出向いて奉納神楽を舞っている。

△△△ ばくち穴 △△△

昔しゃ鬼が住んじょつたき 危ねえき行くこち ナランドち 皆んなにゃ 言いふらしちよつた。谷間かるチョコット 上った所いホラ穴ん大けな口が ポカッたあいちよる。タイマツん灯に 映しださるるんが まるで鬼ん夜遊びんごつ 里かるわゆう見えた。

『こいさも 鬼が夜遊びしよると』 本当かち手で 目の上いカザシチ見りゃ なんほず そげーも見ゆる。

バクチがはじまったんか 金持ちん年寄りしが こそっと抜け道かる 集まるんな てーげ夕暮れ時。奥深え中は外からは 見えんごつ一つ曲がった内側じゃき 中ん灯も外まじ 照らさんもんじゃき 知りもせんしが多い。知っちょつてん メツテなこつー言うとヒジイ目にあいそうじゃ。

中じゃもう 諸肌脱いじ銭が積まれちよる。逞しい悪者どもかち思うたら なんのなんの そりゃ違いよつたらしい。銭はあるが持たぬふりんいわば 善人たちが『こまच्चよるしに』ち 想い合う 心くばりん今流にゃ 社会活動んごたる。ほんななし そげえ隠れちコソコソ 『それが楽しいゲーム感覚』らしい。

『あっこがムゲネーコチナッタ』『フンナ仏前い供えにゃのうこんだアンタしちくんあ』 話も決まりゃそん分ぬ シコする。そんくれなこた一朝飯前ん こげんしたち。夜のヒキアケやもう 灯も人ん声もしよらんち 草きり帰りん若いしが 話しよつた。

方言説明 バクち穴…昔ん大人が内緒遊びしよつた場所。なんほず…いくら見てもはっきり解らない。知れもせんしが…知ってもいなので。しちくんあ…しておいてください。



つ ツトムルワリニャ……務めているのに、義理たてていても。  
ツトメンヤツ…務めないが、義理も考えない、わりに不義理。  
ツトムリヤ…努めておけば、日頃が大切な社会、打てば響く。  
ツトメオーチ…お互いに助け合う、相互扶助が、支援しあう。  
ツトメテン…努めても、わりに鈍感で、ほどほどがよいかも。  
ツトメラレン……務められないので、務めない人だから。  
ツトメチャレ……努めてあげたら、加勢してあげなさい。  
ツトメタチ……務めたところで、お返しは無理な性格。  
ツトーチアルク……伝って歩ける、伝い歩きができたなら。  
ツトーチタテ……伝って立ったら、自然に回復に向けて。

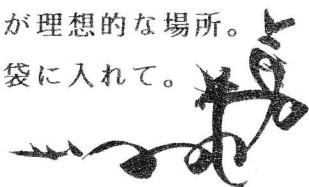
ツトイアルキ……伝いながら歩く、どうやら回復に近い。  
ツトイアイチ……伝いながらの歩行訓練、無理は厳禁だから。  
ツトミー…務めなさい、努めておけば、いつか世話にもなる。  
ツドレ……集まれ、みんな寄ったか、集合しなさい。  
ツナイデ…ついでのこと、来た機会に、来る機会があって。  
ツナガツチヨル……連結、連なっている、連ねてあるので。  
ツナギユ……連絡を、次の人に知らせて、順に知らせて。  
ツナガント……連ねないと、結びつけないと、結ばないと。  
ツナイジヨケ…連ねておけば、結びつけて、連結しておく。  
ツナガレチ……結び付けられて、連ねている、連結されて。

ツナガルリヤ……つながれていると、結びつけてあれば。  
ツナイジクリー……連ねておけば、結ばれていれば。  
ツナンサキユ……綱の先には、綱の先は用心して、結び目に。  
ツナギユ……連絡を、知らせてほしいが、次に知らせて。  
ツナギヤ……つないでおけば、結びつけておけば。  
ツニノツチ…調子に乗って恥じかき、調子にのると坂落とし。  
ツヌリ……ずる賢い、根性が悪い、人を見て考える。  
ツヌルキ……するりにげだす、すぐにげだす、損には逃げで。  
ツネンカウ……日ごろの格好で、日頃の対応で、普通の顔が。

つ ツネンツキアイ…日ごろの好誼、ふだんのつきあい、平常心。  
ツネジャロ……普通んありようじ、いつもん通りじゃろう。  
ツネナ……いつもんとおりじゃな、いつもと一緒な。  
ツネノ……日ごろの、ふだん着の、いつもん通りじゃな。  
ツネンモン……日ごろのもので、ふだん通りの、いつもの。  
ツネカルノヤ……日ごろからの付き合いで、ふだん着で。  
ツネラレチヨル…ひどく指先で刺激を、脅しや内緒気配りに。  
ツノカルキー……角が見せ所で、角の自慢も価値が、角から。  
ツノガイイド……角が自慢の見せ所、自慢したい気持ちの。  
ツノガハエタ……角がやっと覗いたので、角が出て安心。

ツノデンミルカ……角でもみれば話も弾む、角から手始めに。  
ツノデータ……角が出たのは脈がある、角なら見込みも。  
ツノマジヤ……角までは言わずとも、角があるから、取引。  
ツノンワキ……角のそばになにか、隠れた取引が、角と宝物。  
ツングツング……荒たてた言葉使い、暴言が飛び出して。  
ツンツル……はげてしまって、はげたので少し姿が。  
ツンツルシチ…姿だけでは決められない、見かけとは異なる。  
ツントシチヨル……無口な異質人間、人見知りする性格。  
ツバイル……相手が悪かった、ひと呼吸しないと、異質人間。  
ツバクラ……つばめ、燕はまだきかないか、燕の巣造はまだ。

ツバムリヤ……つぼめて保存、つぶしてたためば、保存も。  
ツバメチヨケ……たたんでおけば、つぼめて保存すれば。  
ツバサキヤ……唾のさきには、つばさきにとりが止まる。  
ツバキンジョ……近い近所の人たち、日ごろからの人たち。  
ツバイラワリ……唇のいろが少し不安、唇に紅をさしては。  
ツビデン……庭先にでも、庭先を利用して、庭先の高度利用。  
ツビホセ……庭先の干し物、庭先に干せば乾きも早い。  
ツビヒロギ……庭先に広げて乾燥する、庭先が理想的な場所。  
ツビヨシイ庭先に寄せてしまい込む、庭先で袋に入れて。



つ ツビホタッチ…庭先に捨て、庭先に集めておく、庭先に整理。  
ツブレタンカ…潰れましたか、潰すことが出来た、潰れたわ。  
ツブレチョル……………潰れてしまった、潰れて整理出来た。  
ツブルリヤ……………潰れたのなら、つぶれて始末が出来た。  
ツブシン……………ひざの痛み、ひざが痛むので、ひざから腰に。  
ツブサント……………潰しておけば始末が、つぶせばかたずく。  
ツブシ……………始末してしまう、潰したことでかかずくよう。  
ツブシタカ……………潰したのですか、つぶしたから整理が出来た。  
ツブレタカ……………潰れたので、潰れてかたずいた。  
ツブシチョケ……………閉じるから、目を閉じて、目をあけないで。

ツブリヤコス……………目をとじたのなら、目を閉じて考えると。  
ツブヨリャウメー……………選別したのは上等、選別の価値がある。  
ツブレチョリャ……………目を閉じていれば、目を閉じたならよい。  
ツブレン……………閉じられない、閉じると不安で、閉じなくても。  
ツブセ……………閉じなさい、閉じて静かに、潰してかたずける。  
ツベコベユウナ……………いろいろ言わなくても、言い訳は無用。  
ツベテーキ……………冷たいもので、冷え切っているから。  
ツベテード……………冷たいと痺れそう、冷えすぎて応える。  
ツベヒロギー……………庭先に広げて干す、庭先で乾かす。  
ツベトージ……………冷たくて身震いする、冷えすぎて。

ツベット……………ずるりっと滑る、急に滑る込む。  
ツベテータ……………冷たいとは言わないが、冷たさに苦言も。  
ツベテーヌ……………つめたいのを押しつけた、冷たくて我慢が。  
ツボンクソ……………庭先の草を、庭の草取りも、庭の草はすぐに。  
ツボムリヤ……………細めにすれば、縮むませて絞める、細める。  
ツボンクリ……………庭先の回りに、庭の片側に、庭先の隅に。  
ツボサキ……………庭先は広くて使い勝手もいい、庭先の利用。  
ツボンワキ……………庭先の回りに、庭先は有効利用。  
ツボメチ……………細めて絞る、細めにすれば上品に見える。



つ ツボンハネ……庭先のはしっこ、庭先の端、庭先片側に。  
ツボ……針灸の灸点場所、庭の総称、農家の作業場。  
ツボサルリヤ……潰してしまうと、処理してしまえば。  
ツボデン……庭先でも、使い方では利用価値がある、灸の点。  
ツマランコツデン……たいした事がなくても、雑でも。  
ツママニヤ……つまんで、つまむのも難しい、つまむ楽しさ。  
ツマランカチ……駄目かと確認とって、駄目が案外の時も。  
ツマリメー……駄目と思うが、駄目と早呑み込みは。  
ツマンナ……詰まると困る場合、詰まるから有効で。  
ツマランキ……詰まらないの意味は、駄目と決めつけない。

ツマンジヨケ……積まないで、積まないがよい、積むと迷惑。  
ツمامソコネチ……つまみ失敗したが、つまみ方にも。  
ツマンジミリヤ……つまんでみると、予想以上の成果も。  
ツマラニヤ……駄目ならもともと、駄目と早合点は危険。  
ツミナコツ……迷惑な事、罪になるような、相手の心情を。  
ツミニユ……積み荷を運ぶ、積み荷は責任をもって。  
ツミアギー……積み上げて、積むことで整理もつくが。  
ツミクウダ……積み組んだ、積んであるのはよいが。  
ツミメーカ……積まないがよいのか、積むまいと思うが。  
ツミベリガ……積む度にしばむので、積み方の工夫も必要。

ツミマドイカ……罪の代わりに役立つか、罪のお返しの好誼か。  
ツミツクリユ……悪わぬ罪作りして、相手に迷惑かけた。  
ツミカサヌリヤ……罪がかさなると義理が壊れる、人は大事に。  
ツミクジュ……爪で傷をつける、爪でひどく痛める。  
ツムトイイニ……散髪すれば、積みばよいのに、摘むと後に。  
ツムカン……摘むかもしれないが、積むのもよいかも。  
ツムル……詰める、閉める、とだす、席を満たす。  
ツムンジャロ……積むのでしょうか、摘みとって収穫、散髪する。  
ツムゴタル……摘むようです、積むので、混み合うようで。



今回もご愛読をいただきまして 厚くお礼を申し上げます。西年は羽ばたくと申します。いろいろな問題も多発するが 自分は健康で有意義な 一年であるように 有意義な人生を謳歌して 悔いをのこさないよう お祈り申しています。猛暑の予想もあって 健康管理には 充分に心くばりを 念じています。

子どもの世界には 故郷童話を3本。民話…伝承にも2編を 女性の底力にも 3人の逞しい努力が 輝いています。あの時は苦労したがやはり 過ぎてみるとその かいもあった人生双六。

方言単語『た』から『つ』に 入りこの号で21495語になりました。3面に別けて掲載。故郷の味には『みどり会』の 入選した『だんごじる』を 中心に3品。玉手箱を開けたら 懐かしい話がポロリ はじけました。懐かしい唄も6曲を ご披露して 昔を忍びましょう。

五助街道『宇曾山物語』は 4回目途中まで上って休憩場面。夢とロマンが漂う回想記です。あげな話こげな話にゃ 野津原が大分ん食べ物が見直されるようです。締め民話伝承を辿ると古い 歴史や暮らしにも出会う 故郷の良さが思い出されます。

No.25号は10月発行の予定です 皆様のご支援で支えられて 継続しているような 野津原方言集です これからもご支援の程 お願いもうしあげて 今回も筆をおかせて いただきます。暑さに向かいます ご自愛なさってくださいませ。たった一度きりの人生です。お元気に有意義に お過ごしを。

伝言板

25号

酉年の秋に発行予定の No.25号には  
いつものように 素人集団の野津原方言  
を 掲載予定にしています。今だから  
残せるそんな想いで 皆様のご支援に支  
えられて 約25年あまりになります。

方言でない物も あるでしょう。がとにかく入れておく事で  
つぎに この種ん研究調査を される皆さんの参考にもと  
生きがいにした 調査取捨なのです。だから方言ではない  
そんな言葉 使ってはいけない 使われない言葉などもあり  
ますが 方言集の特性上 あえて入れてあります。のでその  
点はお含みください。

古い先人たちの使った 野津原の生活用語方言 それで相手  
に気持ちがつたわり 生き続けた人たちの 情愛と人の心が  
生き続けています。伝承民話。子どもと方言、故郷の味、宝  
の玉手箱、宇曾山物語、ちょつと一服。女性の底力、あげな  
話こげな話題、方言単語『つ』の項。などなどが 方言おし  
ゃべりで挿入して 説明もつけてあります。

ご自愛なさってくださいませ。お元気な日々を お祈り中  
しています。

平成29年 春吉日



野津原方言調査会 会長 小野寿祐  
ほか 会員一同

平成4年当時文化財調査員だった 甲斐英行前会長が『先人の残した生活用語の方言』を 調査して残したらと呼びかけたが『ヨダキーナァ』 予想通りの返事が帰った。世は平成時代に代わり町政も 30周年過ぎ今市小新校舎落成、野津原中学校体育館大規模改修完成。第一回福祉健康祭、九州横断道路開通の年。有志7名指名に理解獲得、当時の佐藤教育長にも支援依頼、町政35周年記念に出席の来賓記念に 方言単語『前後こぼれ話』3冊セットを 記念用に町に寄贈、支援を頂いて増刷し全員に謹呈申しました。

以来毎年1回発行を続け 臨時冊子発行など通算34冊が 完成しましたがこれも 町や公民館、多くの皆様のご愛読ご支援により既に 方言単語も28400語あまり。勿論卑下する言葉 使われない単語なども方言集の性格上 入っています。全て会員の手づくりで日本一お粗末な冊子です。愛読されます皆様のご希望もあって平成27年から春秋2回発行になりました。

方言単語は分割して挿入して進み 途中で『単語集』の発行も。更に再度の分割挿入。取り組んで約25年あまり 単語だけですと約48000語は 集計されたようです。単語によっては同じ異なる意味もあります…イイデ…良いです。必要ないです。ワリー…悪いのでやめて。病気です。ヨカロウ…良いと思う。いいんじゃない。皆んなに賛成。ムイチミヨ…しっかり開いて。剥いで。方向に。チョウシンイイ…非常に順調。逃げ口上。要領者。などです。

大分県立大分図書館にも謹呈 1冊を永久保存。1冊貸し出し用。1冊閲覧用にしてくださっています。内容には方言単語中心に10あまりにジャンル設け 面白い話題や民話 子ども向き読み物歴史の輝き 女性の底力など 民族風情も輝いています。

- ★ 発行以来ご協力頂いていました  
寺司勝次郎様、松本英明様 お二人には表紙画をご支援頂き  
誠にありがとうございました。
- ★ 調査会では 甲斐英行様、利光節子様、佐藤吉晴様。お三人  
の豊富な調査力が 思い出と共に残ります。

◇ 野津原にご縁のあった 多くの皆様も愛読してくださって  
今も お元気に当時は蘇ると お便り頂いています。

◇ 方言集No.24号《通算34号》 今回も会員4名が調査收拾  
や 編集構成 印刷製本と全てを 手づくりで お手元  
にお配り お送り申しました。今後もご健勝に引き続きご愛読  
の程 お願い申し上げます。皆様のご愛読 ご支援によっ  
ち 今回もお届け出来 感謝申しています。

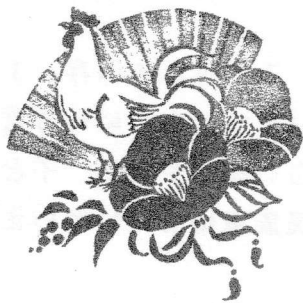
- ◎ 調査收拾…小野寿祐、佐藤源治、那須政子、赤星ヨシミ。  
監修印刷…小野寿祐、赤星ヨシミ。カット…那須政子。  
製本点検…小野寿祐。編集印字…佐藤源治。

平成29年4月吉日

☎ 870-1211 野津原方言調査会 会長小野寿祐

☎ 097-588-0572

☎ 事務局 588-0092



(102)



